

武庫小界式

特36

585

館

函七

架一

號

館新書會育本日本大		
六		三
三册	〇號	二架
		七函



神道黒住派奉祭畧式表之中

欽具

棺

材材口松松故杉杉樟樟等又便宜便宜之従従ふべし

但但し大大甕甕桶桶畧畧きと又妨妨を

柩

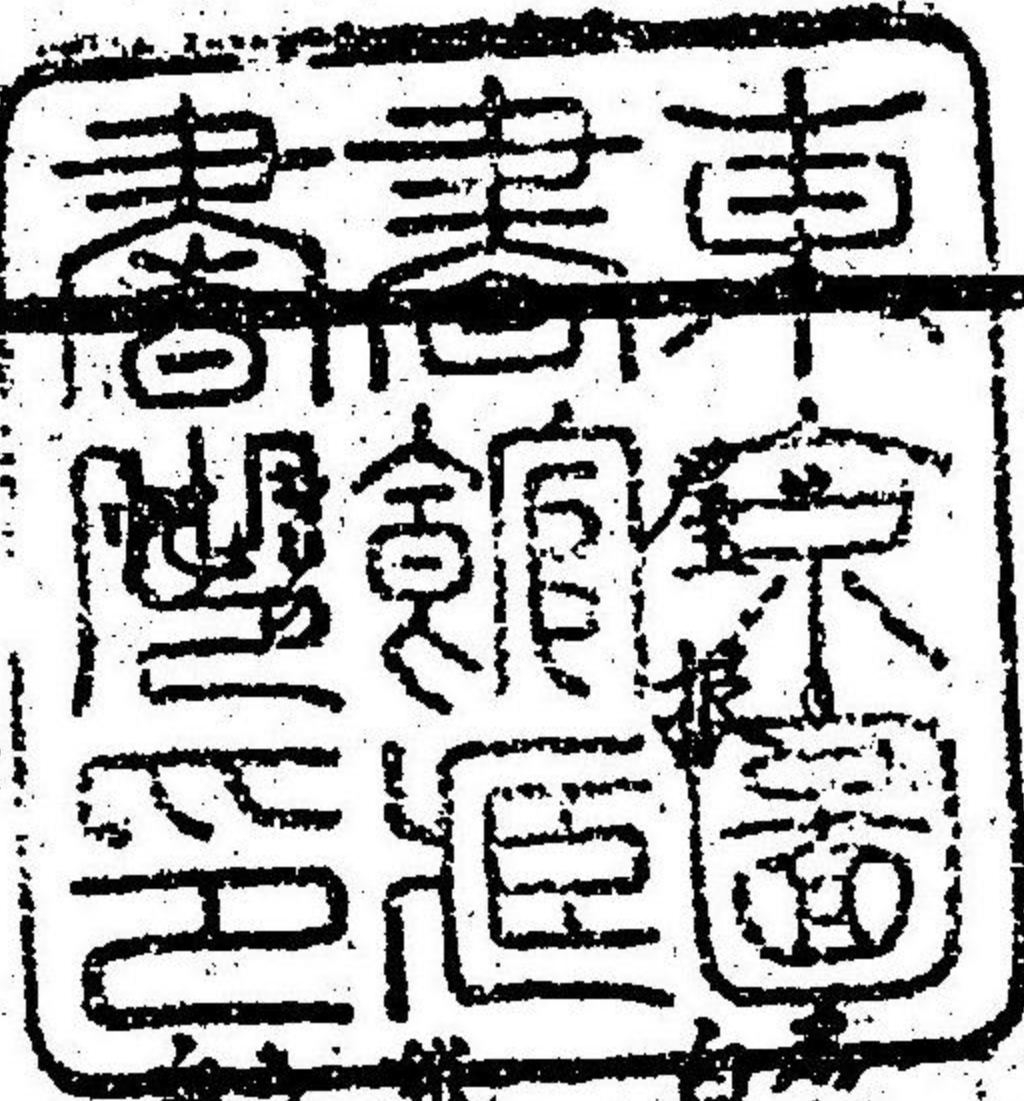
材材其其所所々々の便宜便宜に隨隨ふべし

但但し分分之之應應し都都を省省くべし又可可なり

白白木木にて作作るべし上上に知知木木を舟舟け或或は

紙紙にて作作るべし妨妨を

絹絹白白布布等等にて製製るべし



神道黒住派奉祭畧式表之中



枕 同上

衾褥 同上

箱内に入る物 飲食文武の器物 柳行李

蓆籠 曲物 袋等の類を入れる

充袋 白紙又ま麻布にて作るべし袋に入る

品物ハ 石灰 或は 靱糖 猪屎心

蕎麦殻 茶 綿 等の和らかりて清

淨ふらぬものを用ふべし

白小袖 白胡白木綿を用ふべし

但し其冬差別あり

帯 同上

足袋 同上

明衣 奴袴 烏帽子 明衣は淨衣の如き物なり

奴袴も古制ありし今も淨衣半

差貫のりるを用ひてより烏帽子と黒ま

布にて作るべし袴羽織等好し

○非具



伏櫛 たひよ

棺をのせて身く具あり(上中下の製より中下の二面を出)

寸法を棺の大小により寸法を定むへ

但一畧を輿を都の代へ棺桶を載せ

時を大擧を用ひせ

凳子

棺を据る臺あり二つを用ふべし

銘旗

生絹麻布木綿を用ひ一幅にして六尺或

と八尺位を造るべし(赤地白書)

紅白旗

絹木綿の内を用ひ製方を銘旗の如し

神

長さ四五尺にして五色絹或は紙にて垂を

墓誌

著くへ一數を身分に應じて一本より四本迄を用ゆ墓の両側に建てるあり

長さ八寸巾五寸位圖を見合ふべし其品

瓦石に文字を鑄るべし

但一是を畧せし意に任すべし

墓標

寸法適宜にして木にて作るべし

案

饌を供する用具なり

白飯

浄水 供物櫃に入るべし櫃を畧せまじ

何れも浄清の器物に入れ運ぶべし



灯燈 ちやうちやう 白張たるべし大小筒敷かかと分り應り適宜

よるべし

笹舟竹墓所の四方に竹を建て注連繩しゆれんじゆを引渡す

べし分り應り白菓と張るし省くし意

仕るべし

玉串 神の枝に紙垂しづりと付るは去喪主以下墓前

に供ふる料あり

薪 夜分庭燎ていりやうの用あり

手桶てぶく花抄はなしり

箒はき 二本

杖つえ 白布の袋に入るべし畧して紙にて巻く

人可なり

沓くつ 沓臺に載きべし沓を所より草履ぞうりに畧

しり可なり丸白布の袋に入るべし

右葬具を式了りて焼くべし

但習俗適宜と任る人妨かり

○喪服



葛衣ウツクイ

袴ハカマ 古制のきざりキザリ 袴ハカマ 古制のきざりキザリ 中ナカ 喪服モウフク とはハ 籠カゴ 色イロ の布ヌ 等ト してシテ 製シ 袴ハカマ と同色ドウシキ と用ユ 可カ

烏帽子カサ

黒クロき布ヌ してシテ 作ツク 上ウヘ を白布シロヌ してシテ 覆フク ふ古コ

禮レイ のきざりキザリ 喪笠モウカサ を用ユ ればレバ 省シム くべし

喪笠モウカサ

墓参ケシム の時トキ 用ユ うべし

是等コトノトキ と皆みな 喪主モウシ 重服トモカサ の者モノ の用ユ う服フク あり

○祭具

聖主セイシュ

横ヨコ 寸尺スンシツ 適宜材トクイサイ 八横ヤチヨコ 又何木ナニノキ してシテ 意イ と任ニ

セバ

厨子クシ

圖ヅ を見合ミア せバ

柳ヤナギ

聖前セイゼン の供ツケ ぶる料ネ 一木イツキ 或ナラバ 二木ニキ 五色イツシキ 絹ヌ 或ナラバ

紙カミ 垂ツリ 幣ヘイ を舟フネ くべし

玉串タマグシ

主人シヤウジン 以下イカニ 各オノオノ 供ツケ ぶる料ネ あり



水

埴 陶器 硝子の類惣て清浄なる品

塩

全上 瓶子とよしとんと云とト焼物硝子の類

酒

と用ふるはさはしきなり

飯

但売對 三方折敷の類へ埴とよし高盛て載せ

奥鳥

魚鮮魚よきば海魚河魚とよし用以鳥は

野菜

大小を撰び新しきをよしと十鳥をき時  
多卵の代り人可あり  
菜大根瓜茄子の類

山の物

葦積薯蕷の類

海菜

海苔 和布 昆布の類

時菓

蜜柑 柿 梨の類

乾魚

干魚 干海老の類

菓子

蒸餅 干菓子の類

乾物

氷豆腐 氷菟蓐の類

大



時花

草木より用ふ

造花

人造の物を去之は省くは妨ふ

燈并臺

昼を用ひす

靈主案

高札をりべし

供物案

八足或は常の机として妨ふ

玉串案

小机を用ふべし

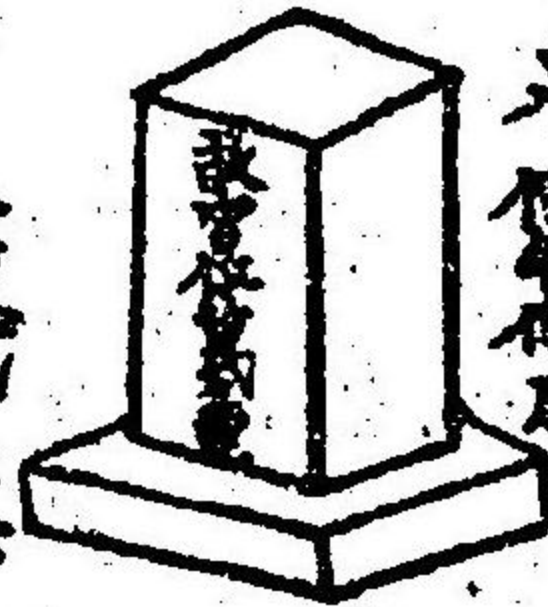
裁建

分り應し高麗緑の臺を用ふは妨ふ

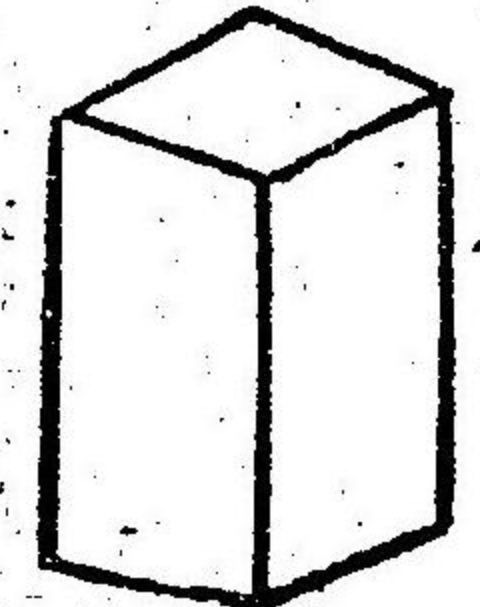
圖式

靈主

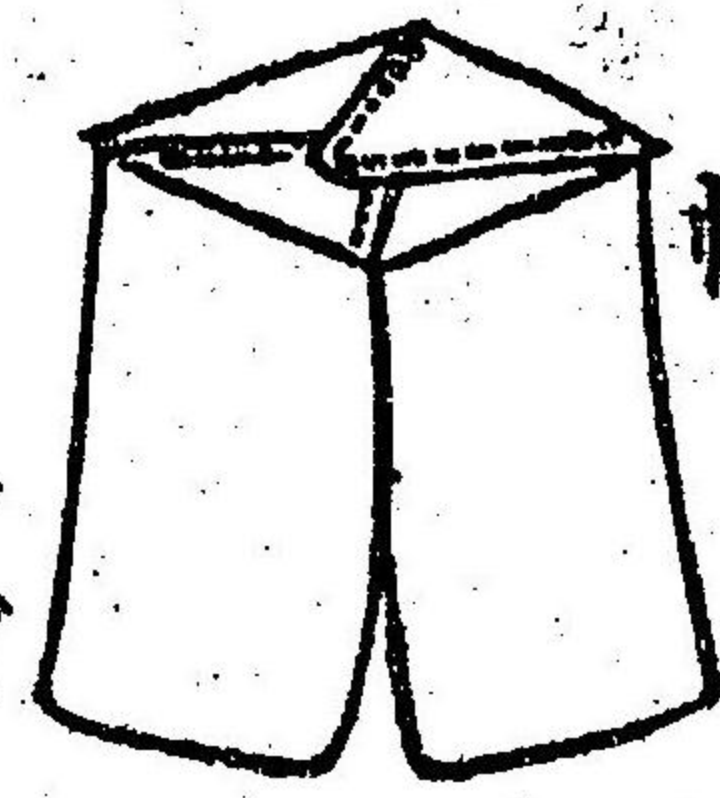
其形



横



把



笏形



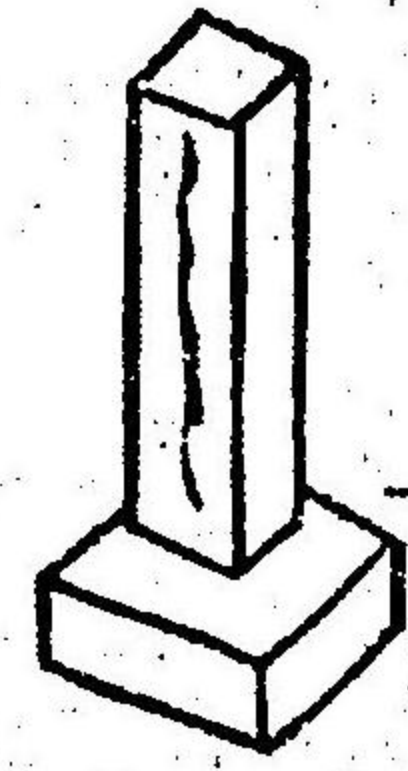
鉞形



書式より下致式の案を見る

此処はのうふとて

同

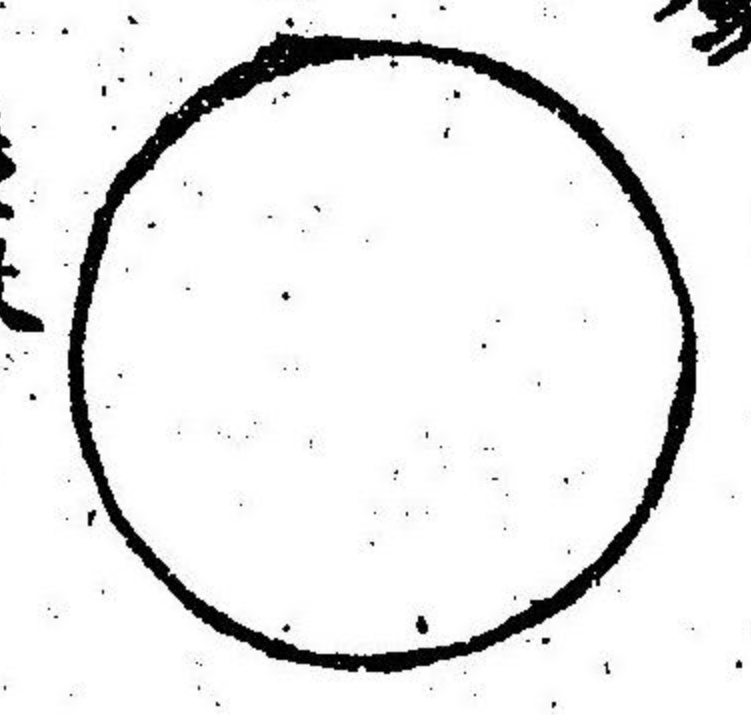


祖先と合祭するは横を取除け中の真の靈  
主を臺より故取て靈主と一束として祭るべ  
し其一束として形下は結す如し九祭主の  
意に仕す此式よりとざるもさほるが



鹽魚鏡

表



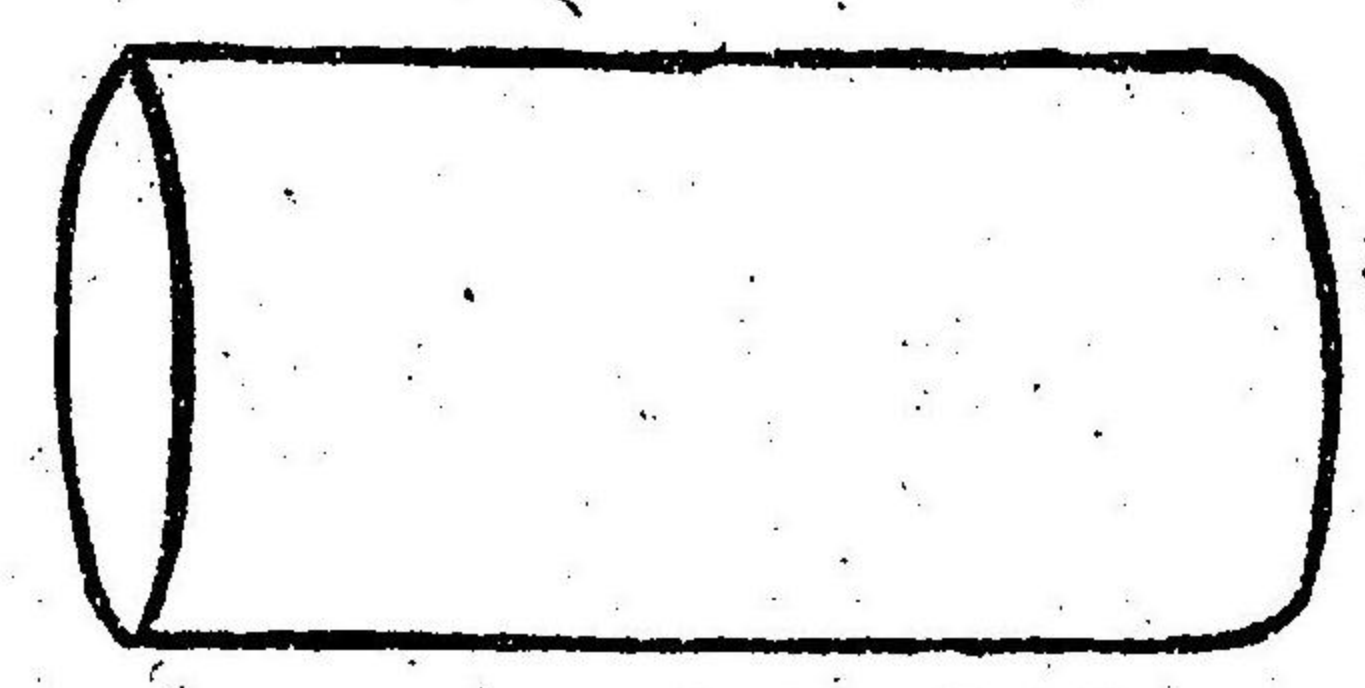
裏



重魚の鏡。短刀。玉。其外型に任せて

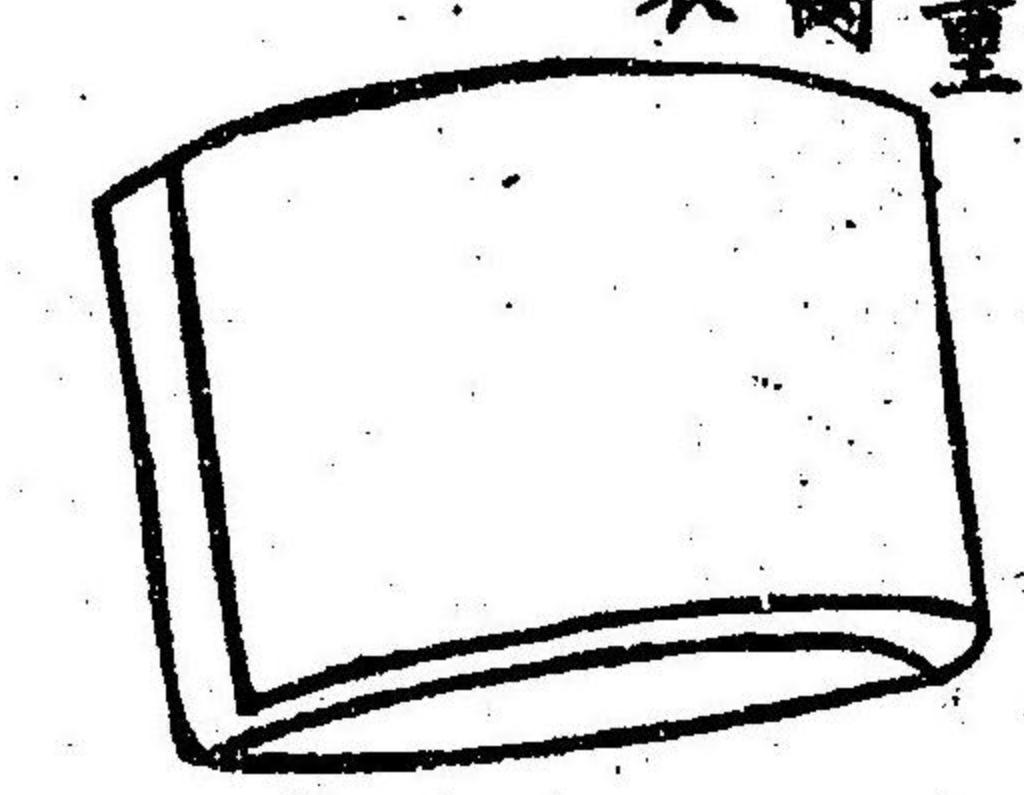
同袋

一枚

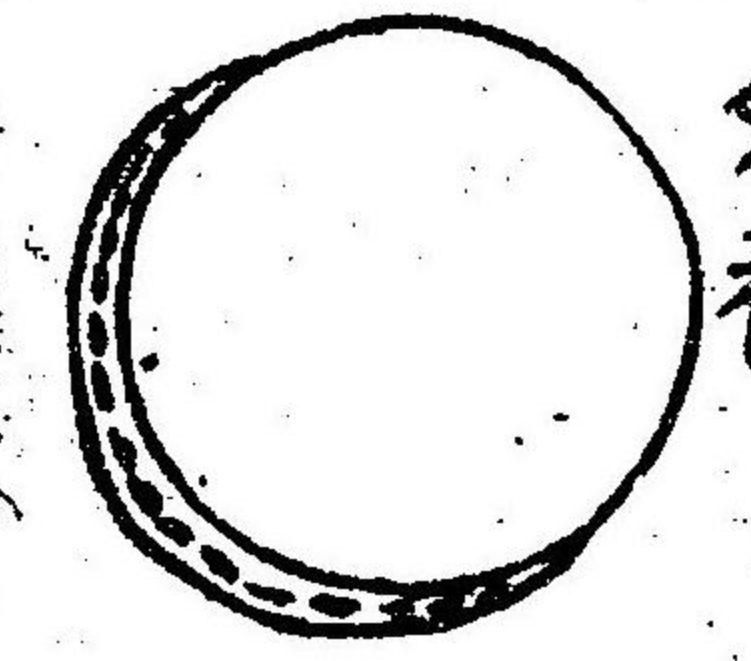


白二羽重  
を以て兩  
口と製

重魚を袋に納て丸  
右を折掛する圖

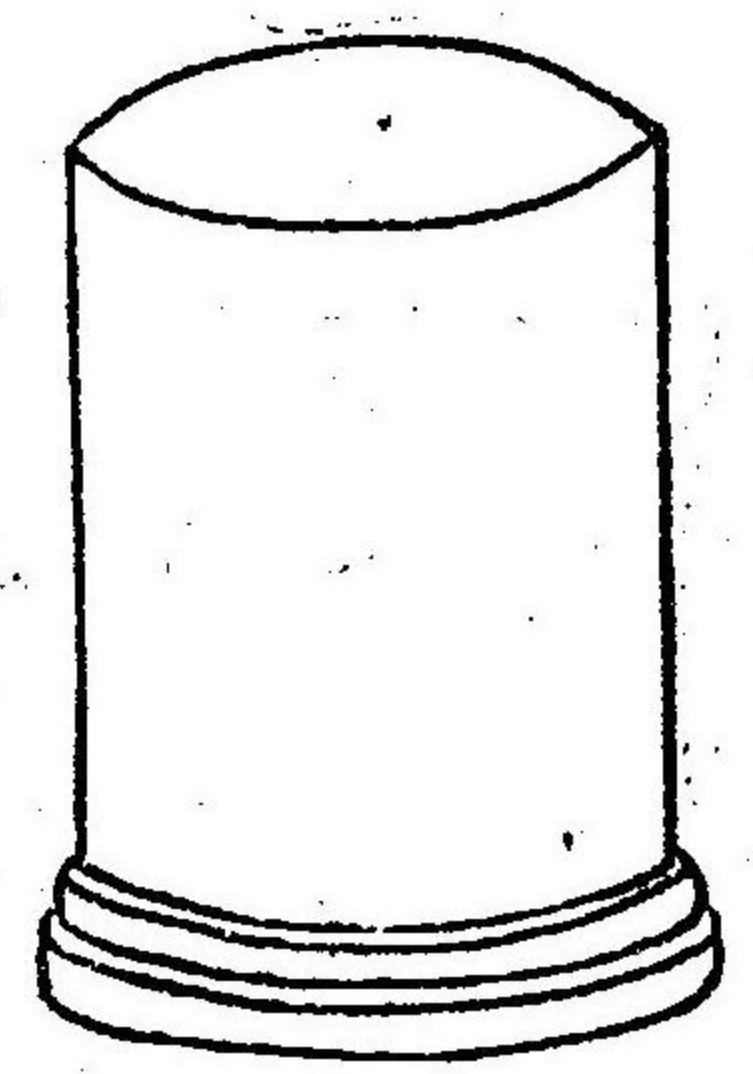


余樽 本一枚

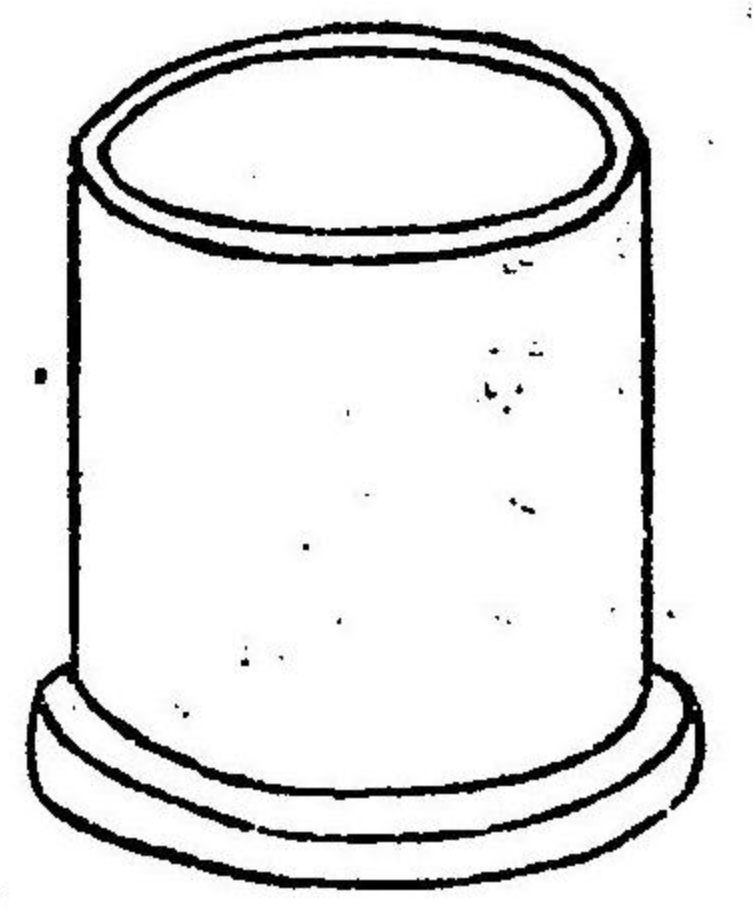
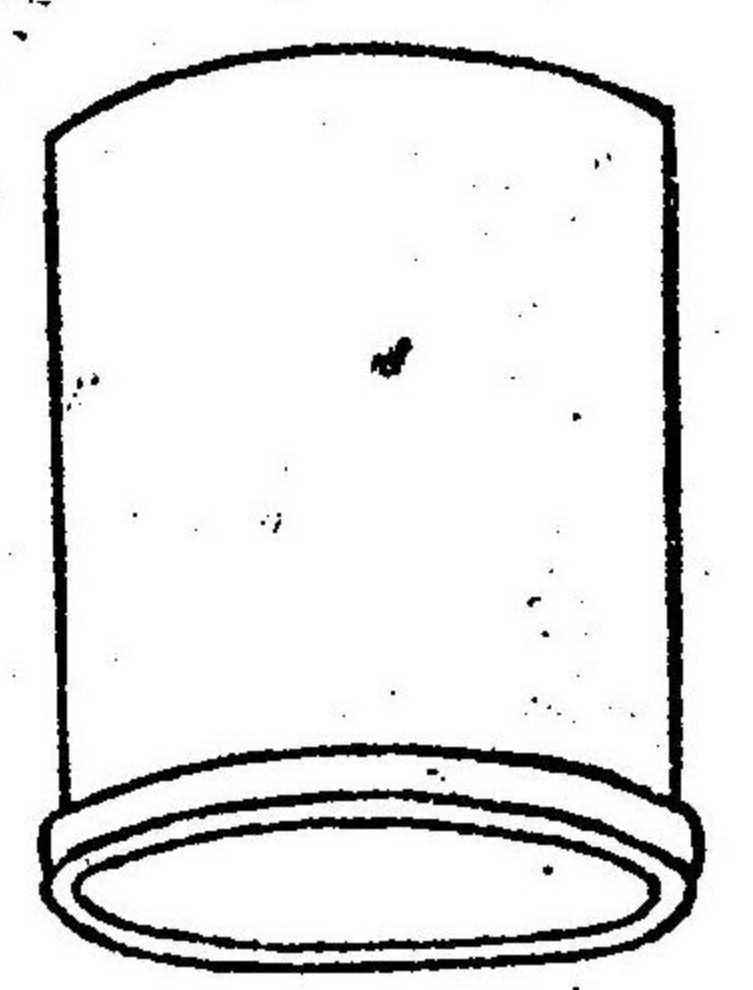


白二重の綿  
を入て製

植代



蓋



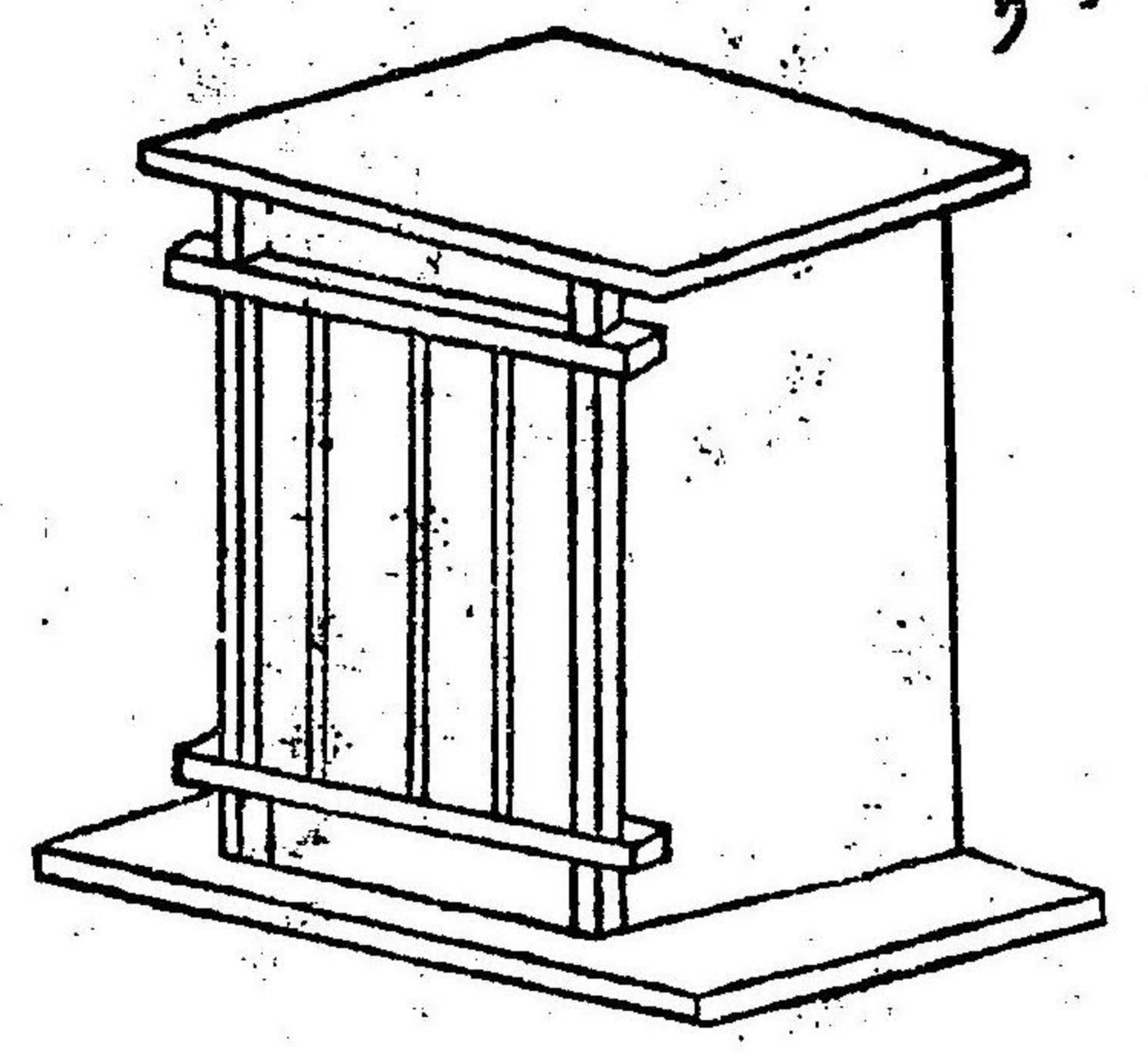
杷

一枚



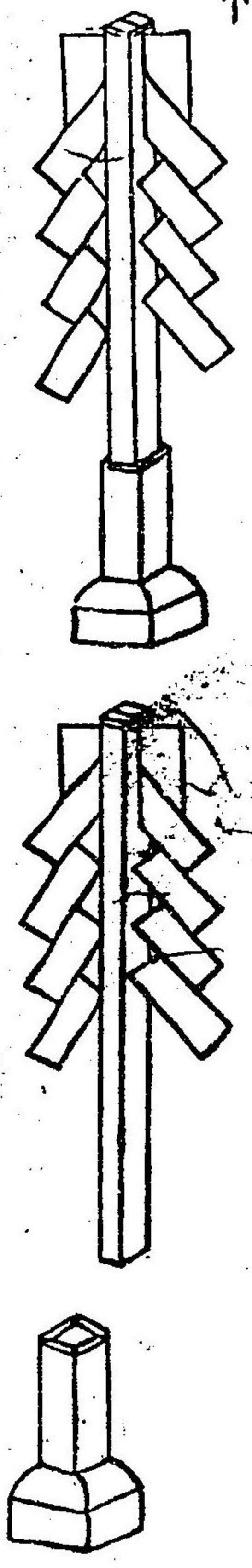
植代は美天重の形に隨て造る。其  
あまが箱の形を用ゆるものなり

厨子





幣



麻 神ノ壘ハ八重ノ紙ノ紙ノ麻モ以テ作ル

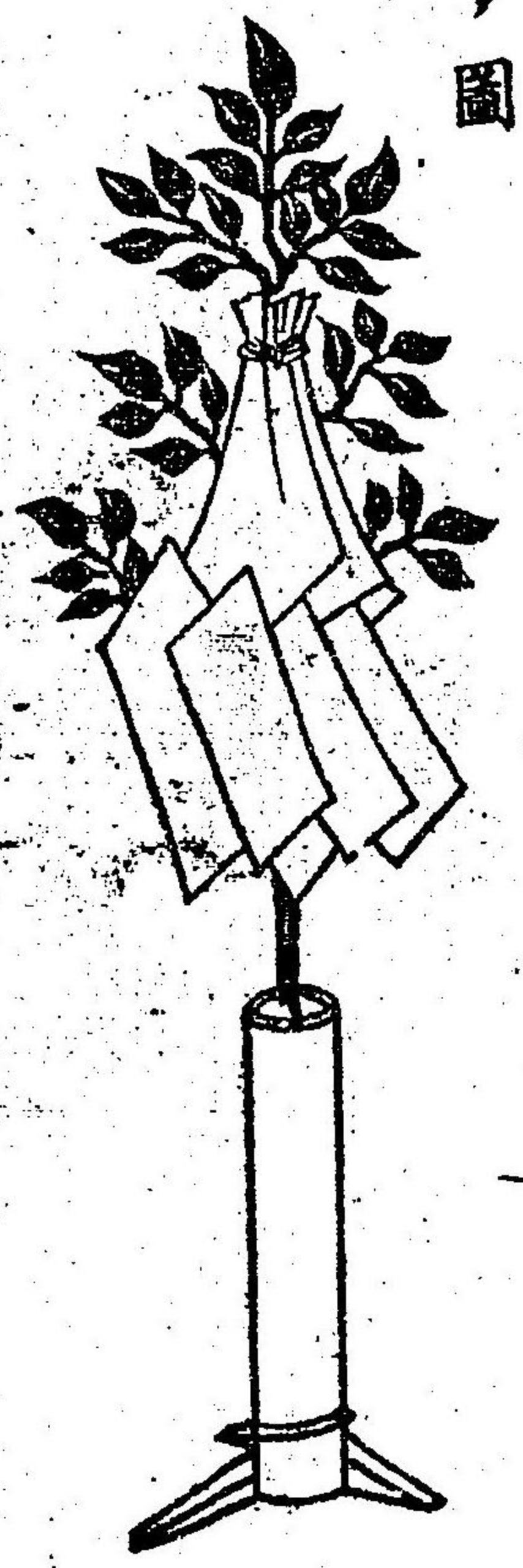


玉串



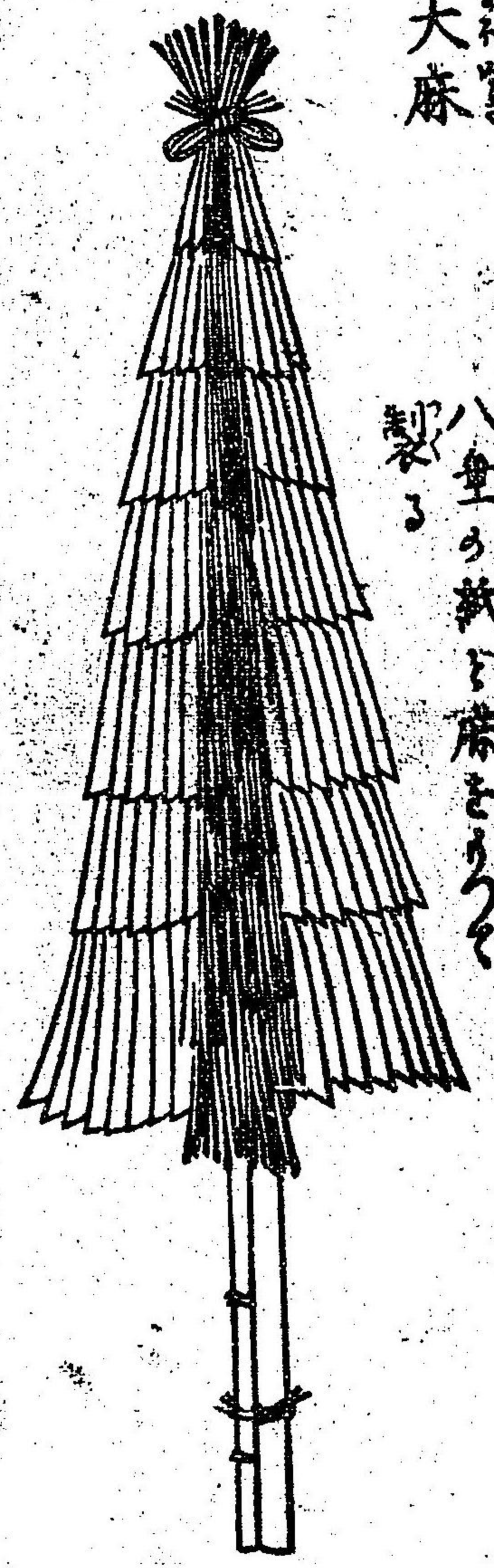
壘ハ紙モ四重ノ坊テ著ル

神ノ壘を著て  
筒ノ立ノ圖

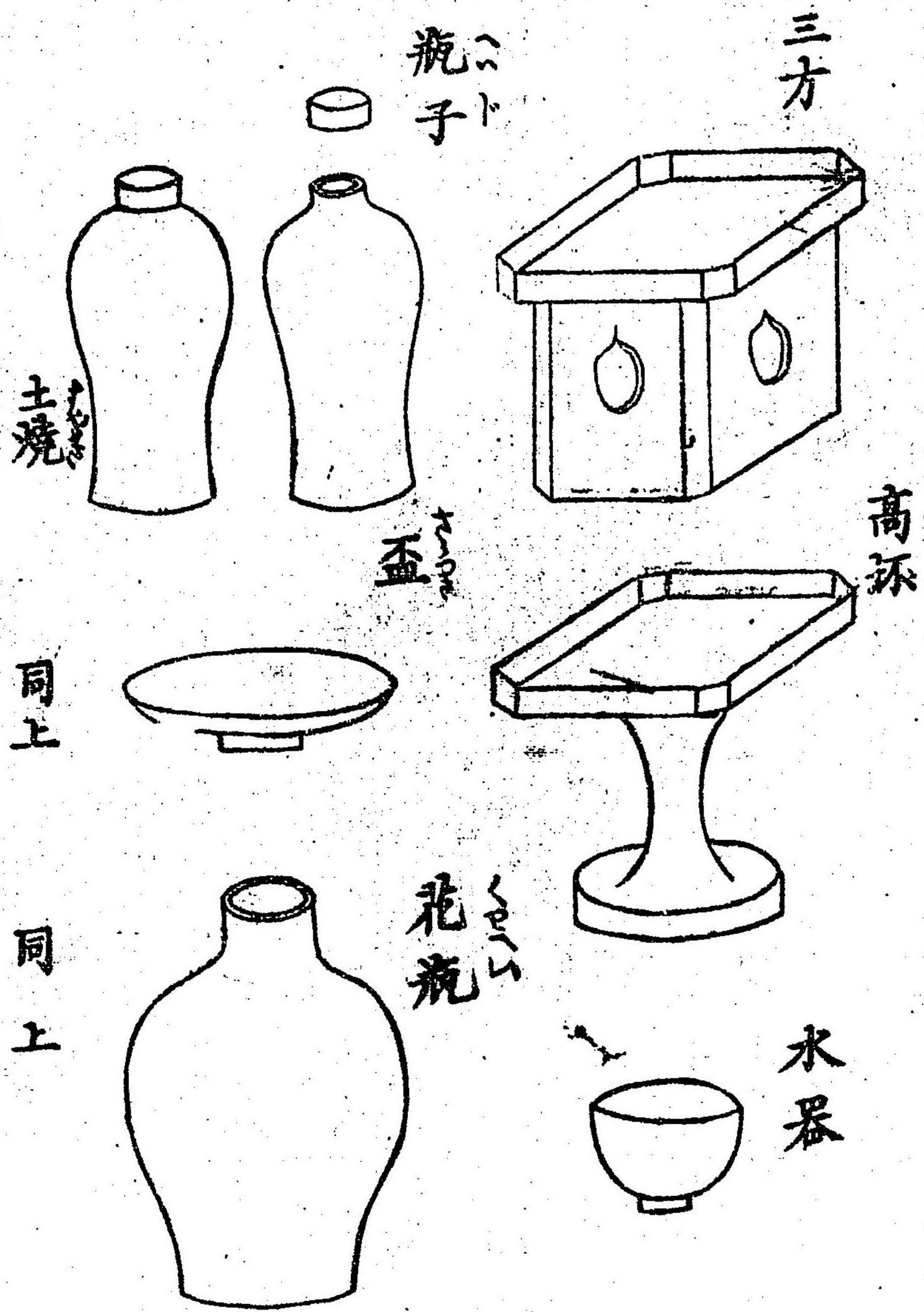


大麻

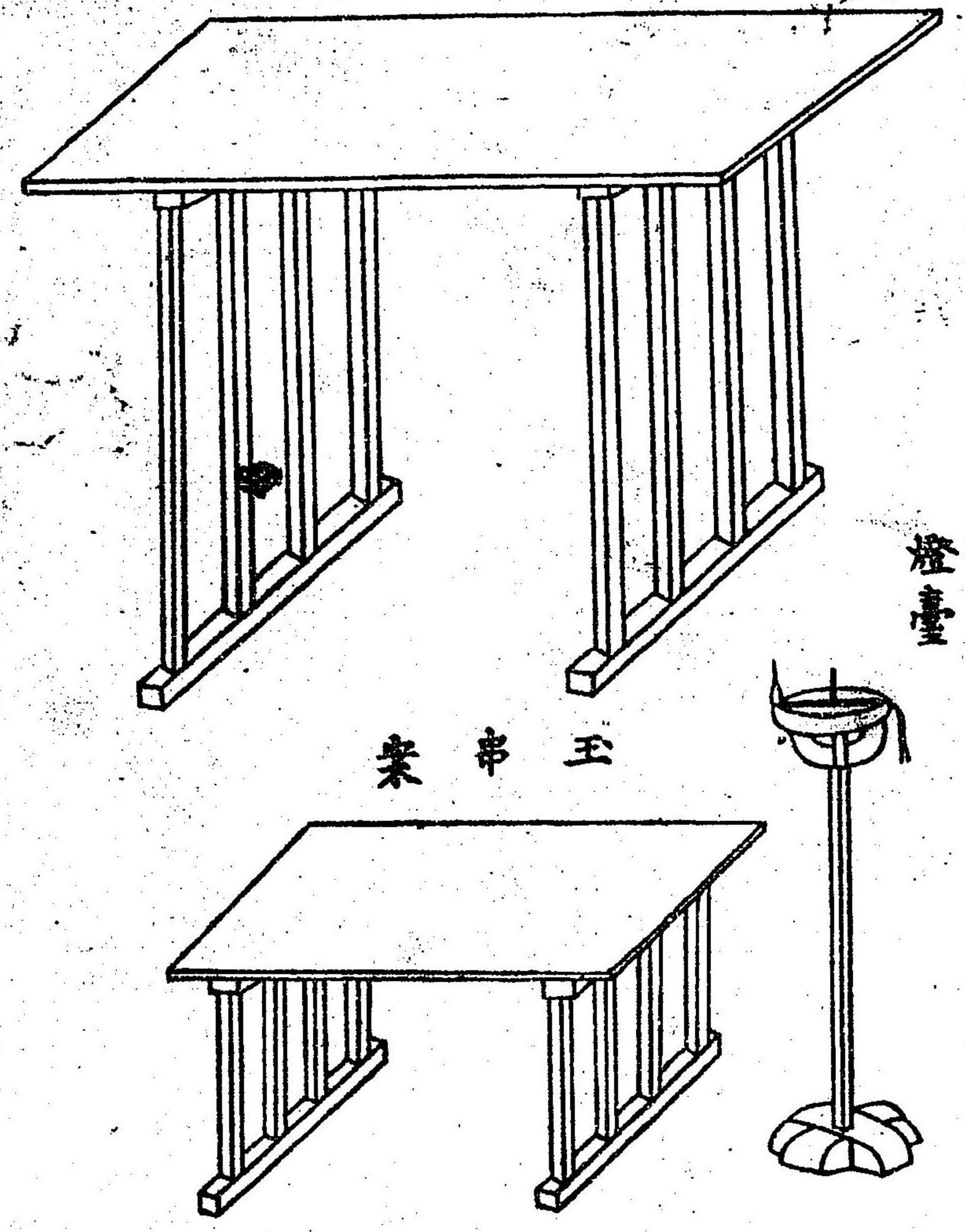
八重ノ紙ノ紙ノ麻モ以テ作ル







八はち 豆まめ

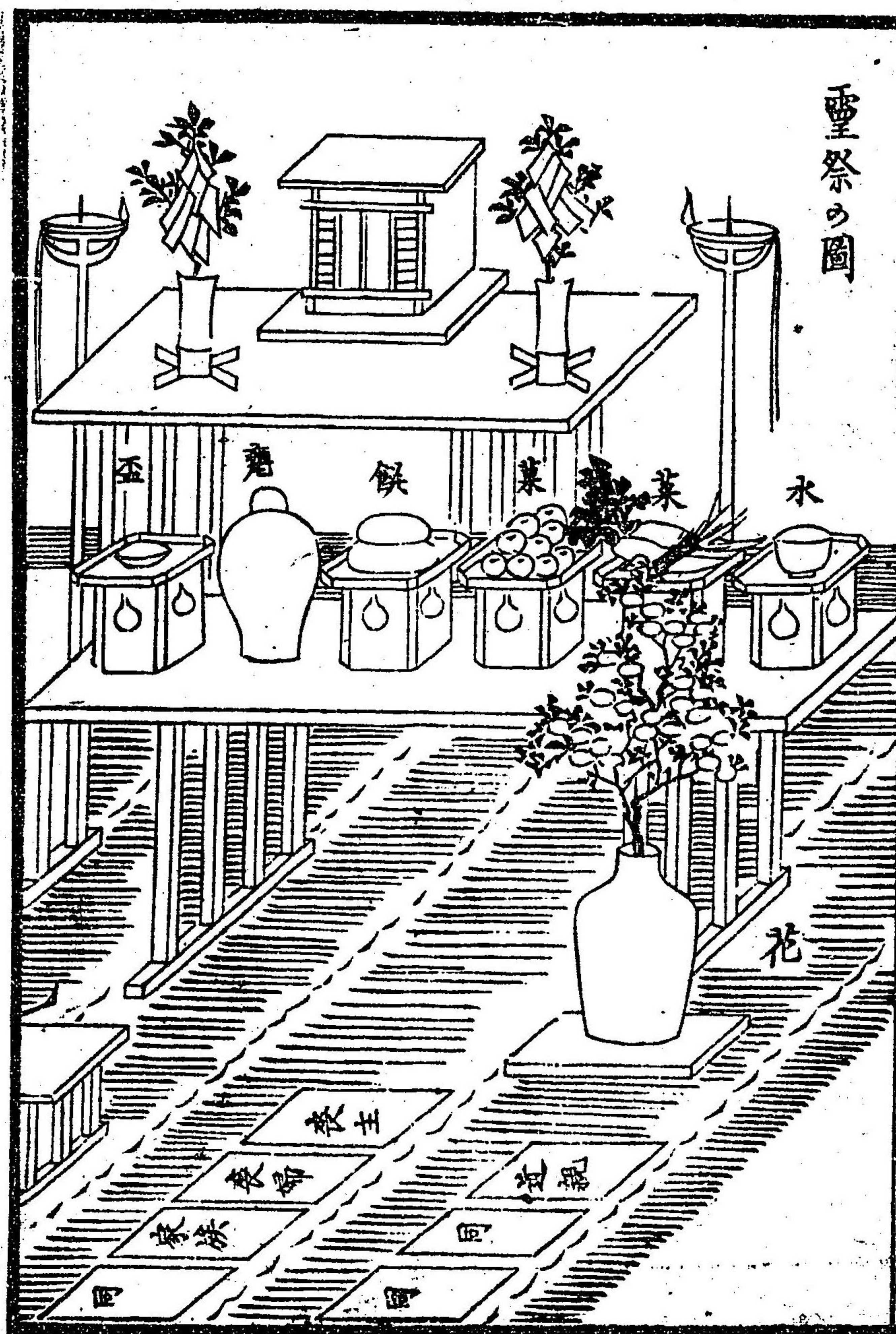


卷まき 十じゅう

十じゅう



聖祭の圖



墓所の祭は聖祭の位置と同  
 聖舎と振と換のシヤウ

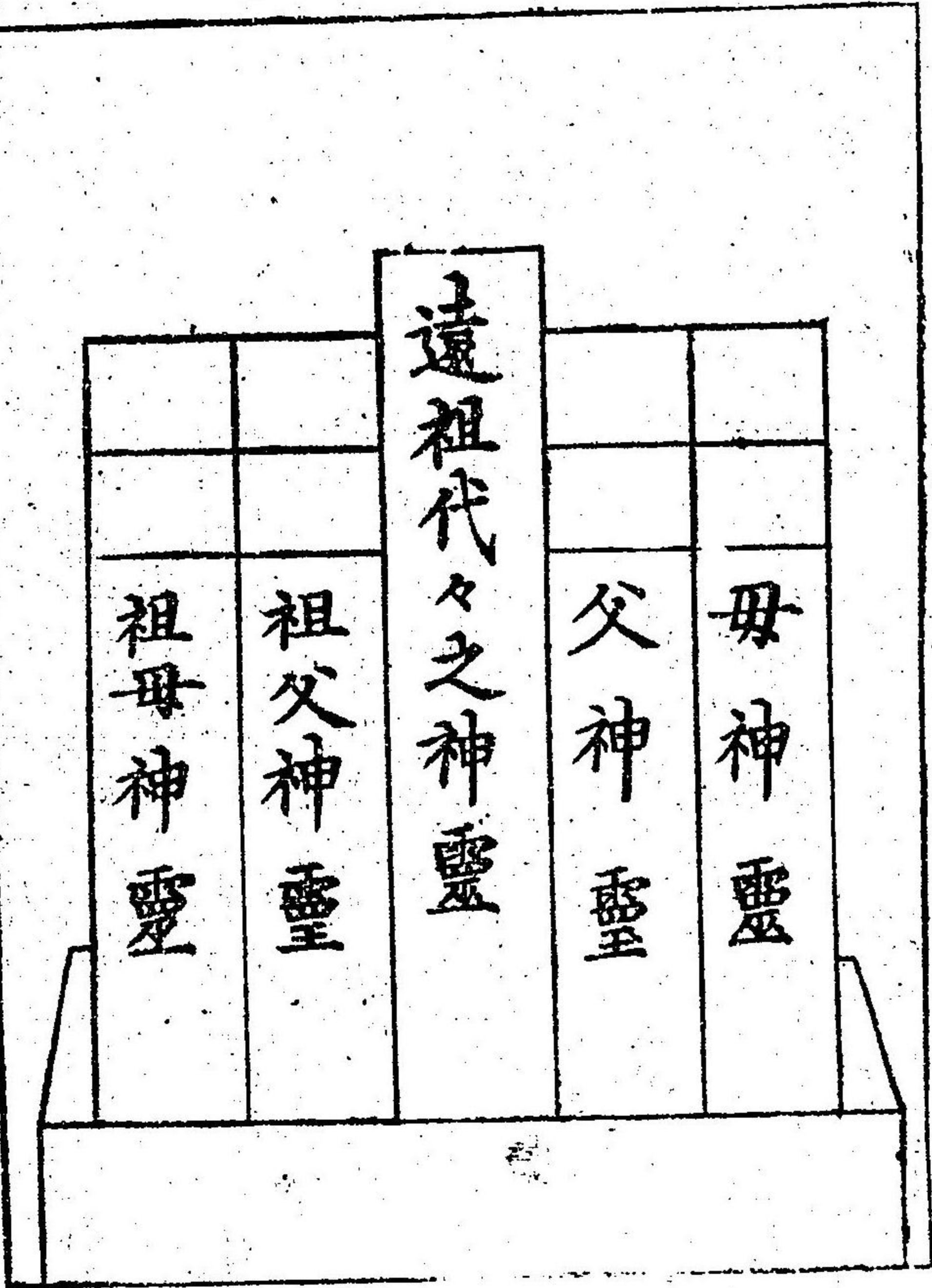


聖祭の圖



此圖は唯大畧あり案トニテ足るべし壺  
 七片或を五に合せて盛る時は事足るべ  
 一併し置ても分難き故案と壺とを増品数を  
 ちらひにあり春秋祭には先祖各の靈主を安  
 置に政式の圖をなすべし

祖父母父母の復さるるは  
 兄弟親族の類なり



上靈主乃  
 祭と合せ  
 なるべし

此圖は法より形亦色々の製あり  
 食福分り應るるをすべし



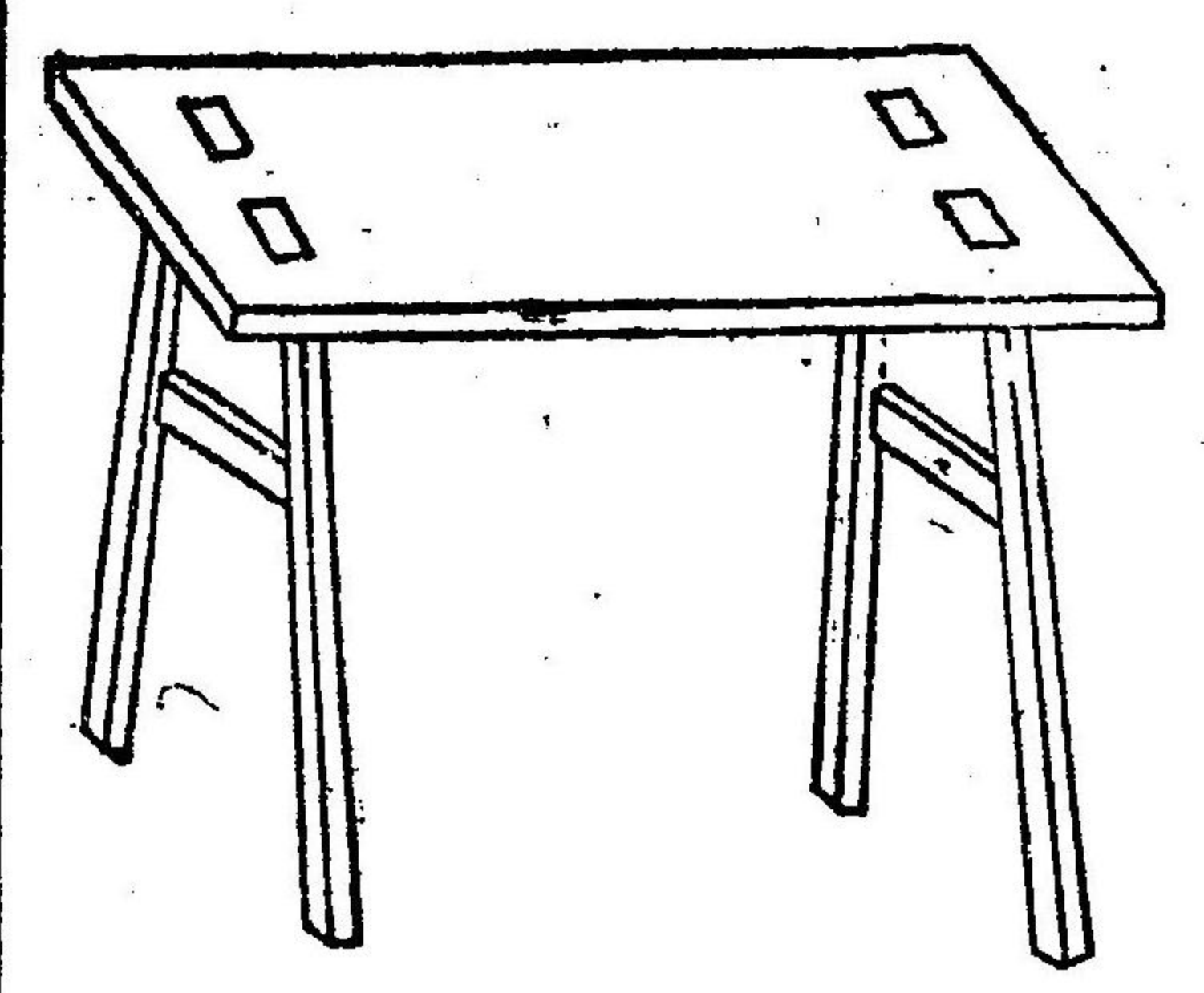




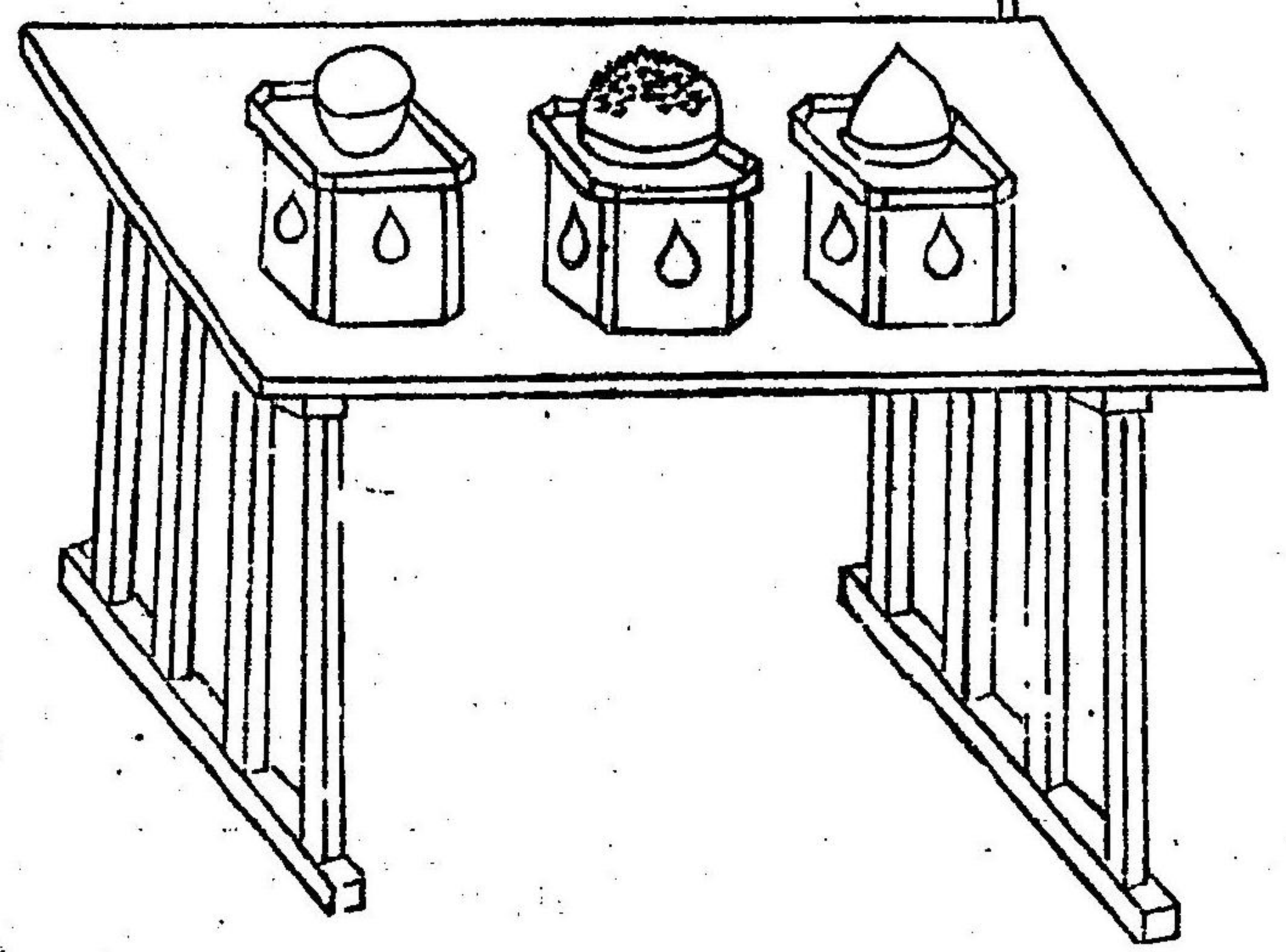
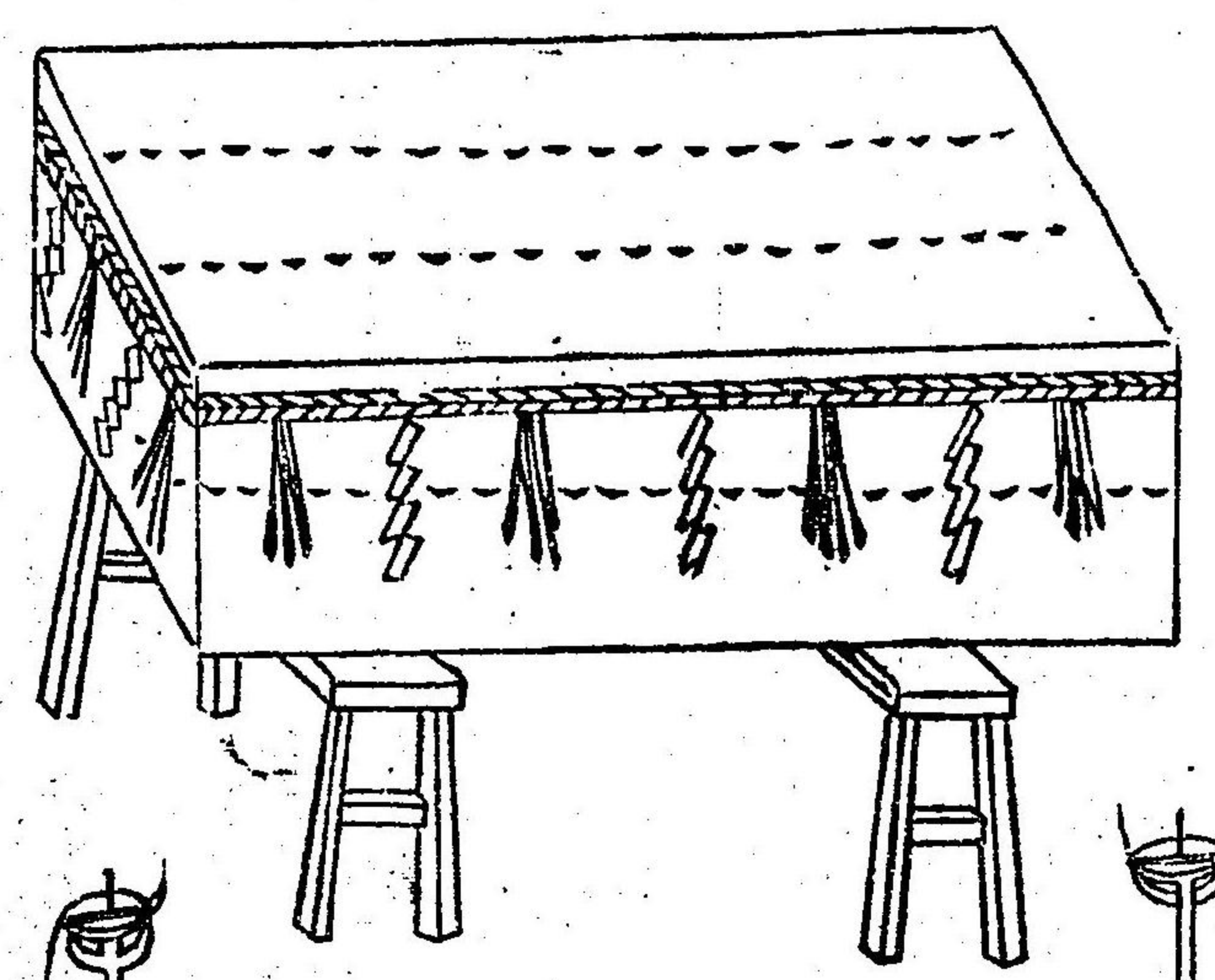
坐棺臥棺好より臥棺行例或は埋るは足の方  
を前とすべし

柩是を棺の寸に應一ニ寸余り甘き板付て大に  
作す土防<sup>お</sup>が為おき板と薄く削り又り  
くてより

免子



遺體を柩に納めたるに掛り注連縄をまわして  
免子に安置したる國





行末の  
象炬

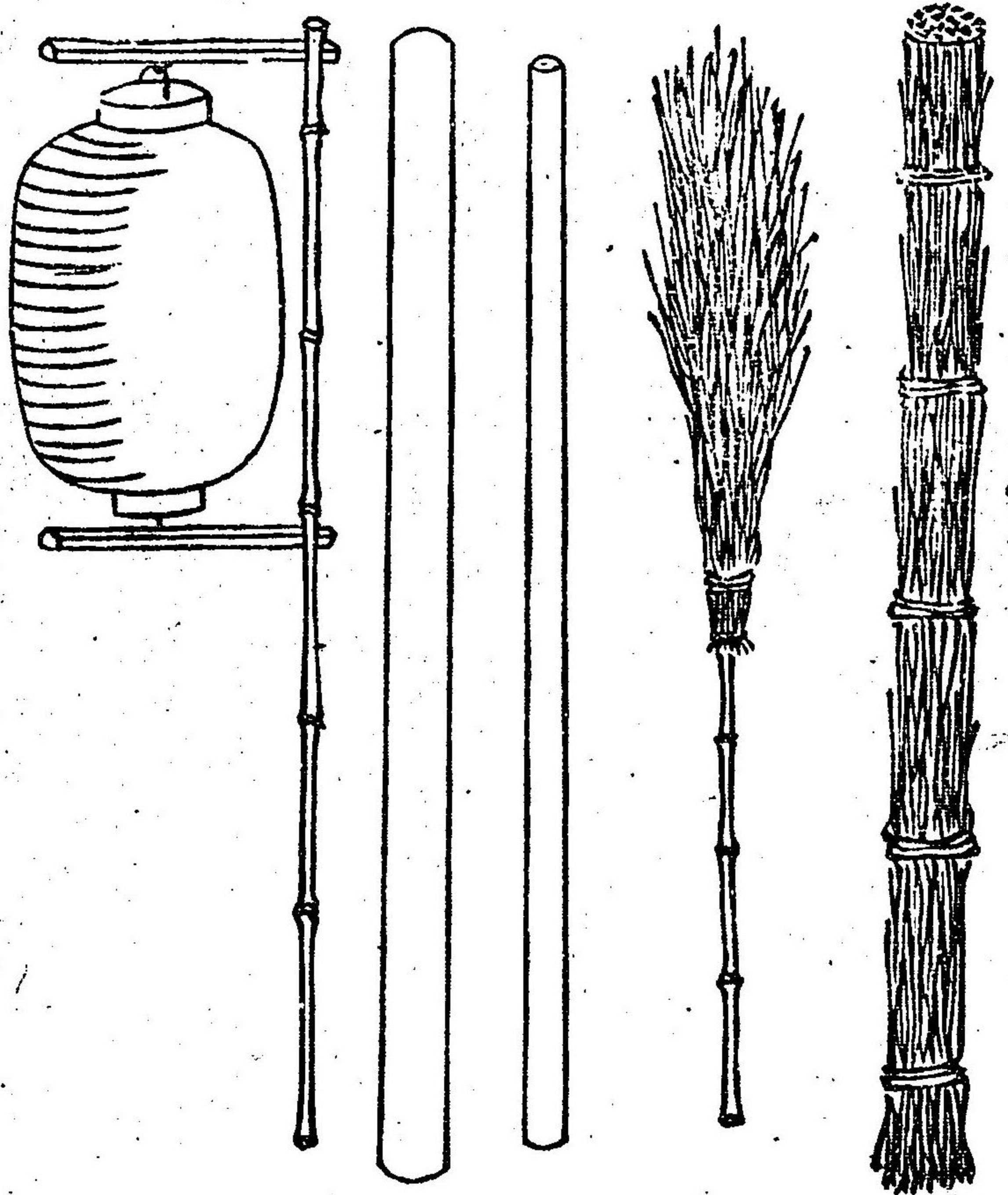
けしき  
幕

しろくろ  
白杖

つるむら  
杖袋

ちきり  
灯籠

長廿四尺余



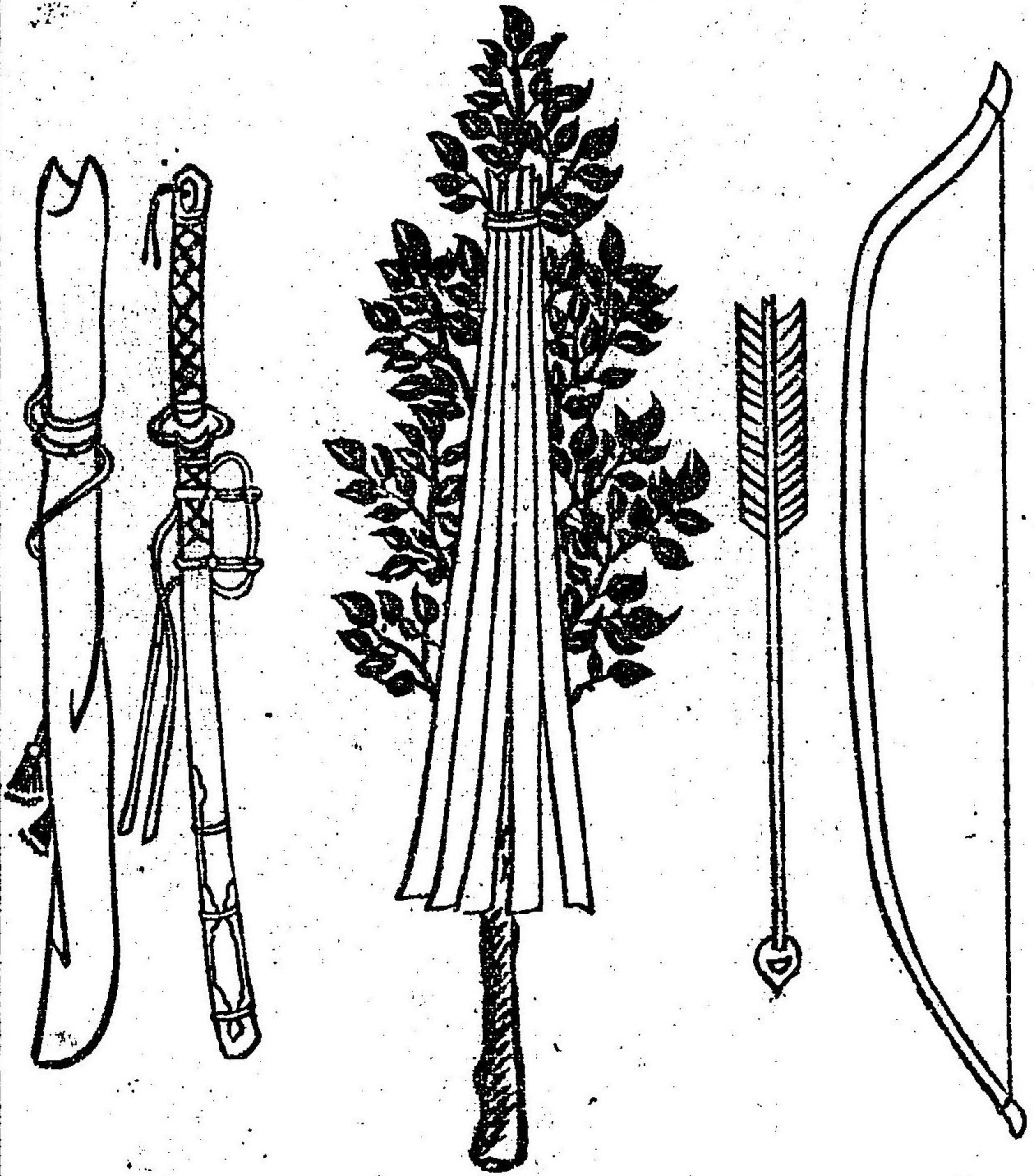
しろくろ  
白木弓

しろくろ  
白羽矢

しほ  
胡  
神  
五色

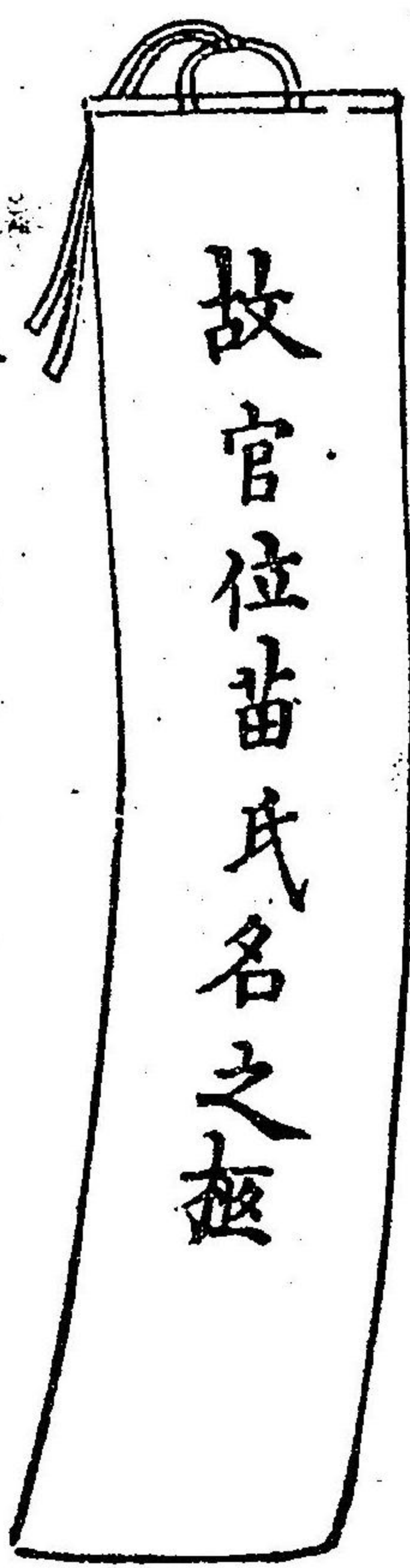
たが  
大刀

どうふくろ  
同袋





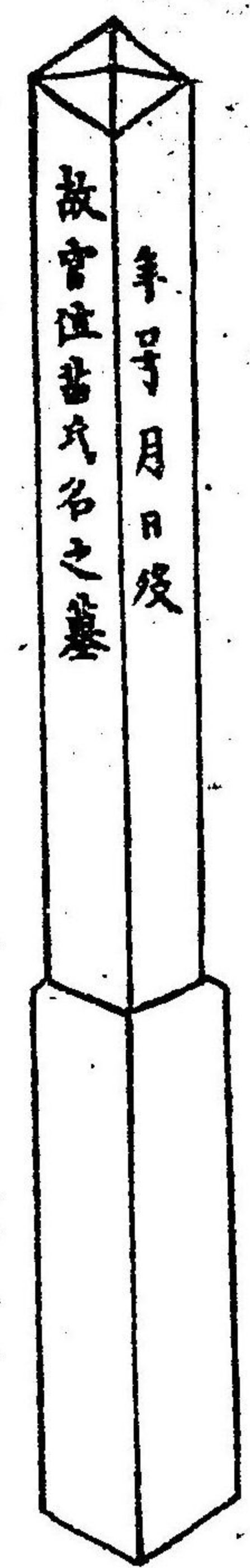
銘旗



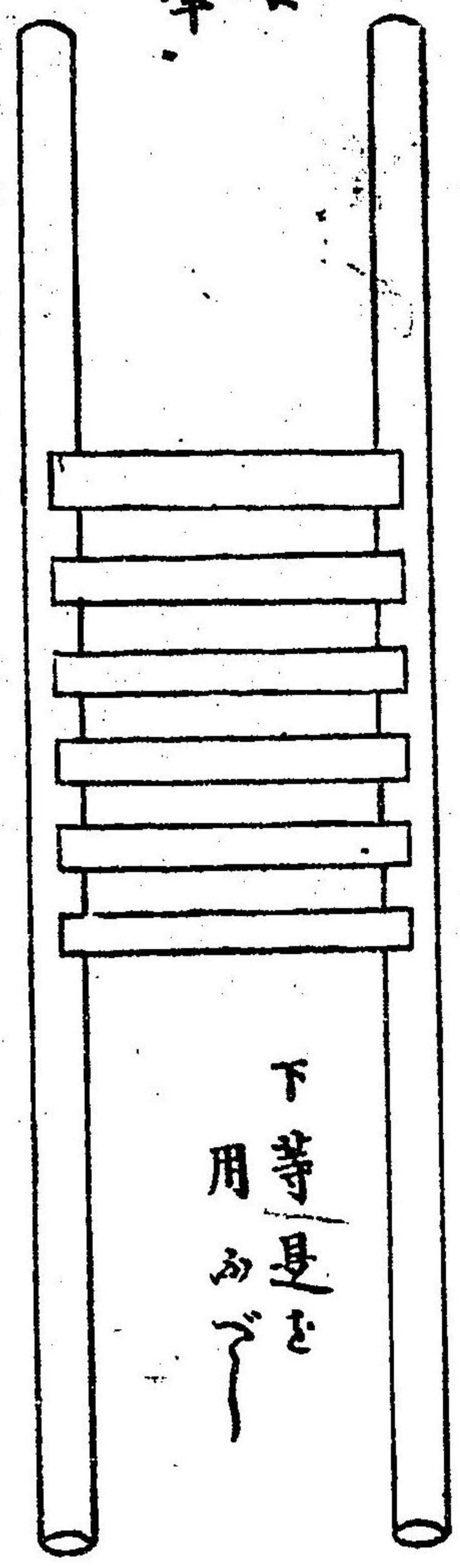
旗竿



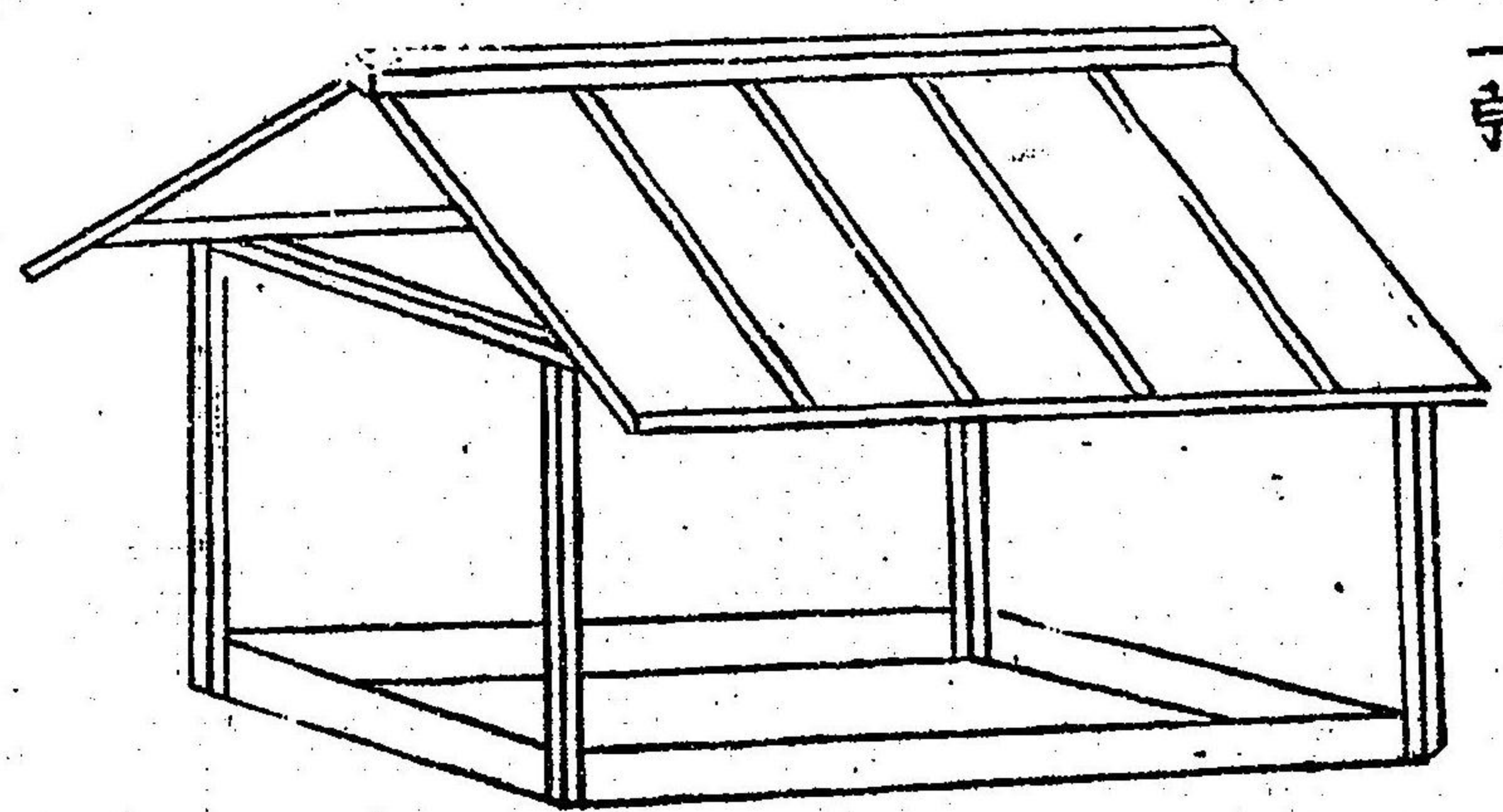
但シ紅白ノ旗モ此圖ニ同シ



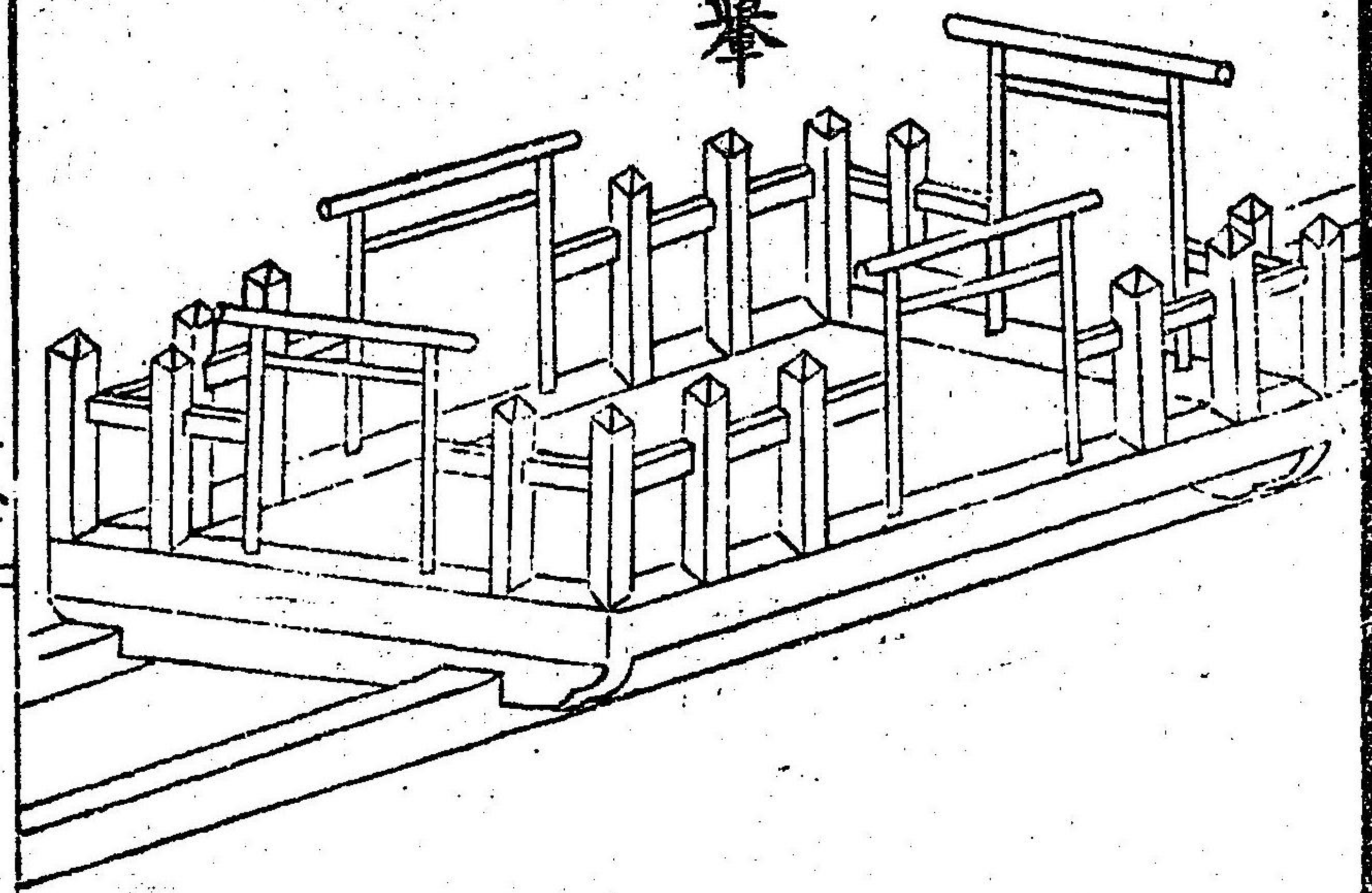
大擧



棺屋 一守

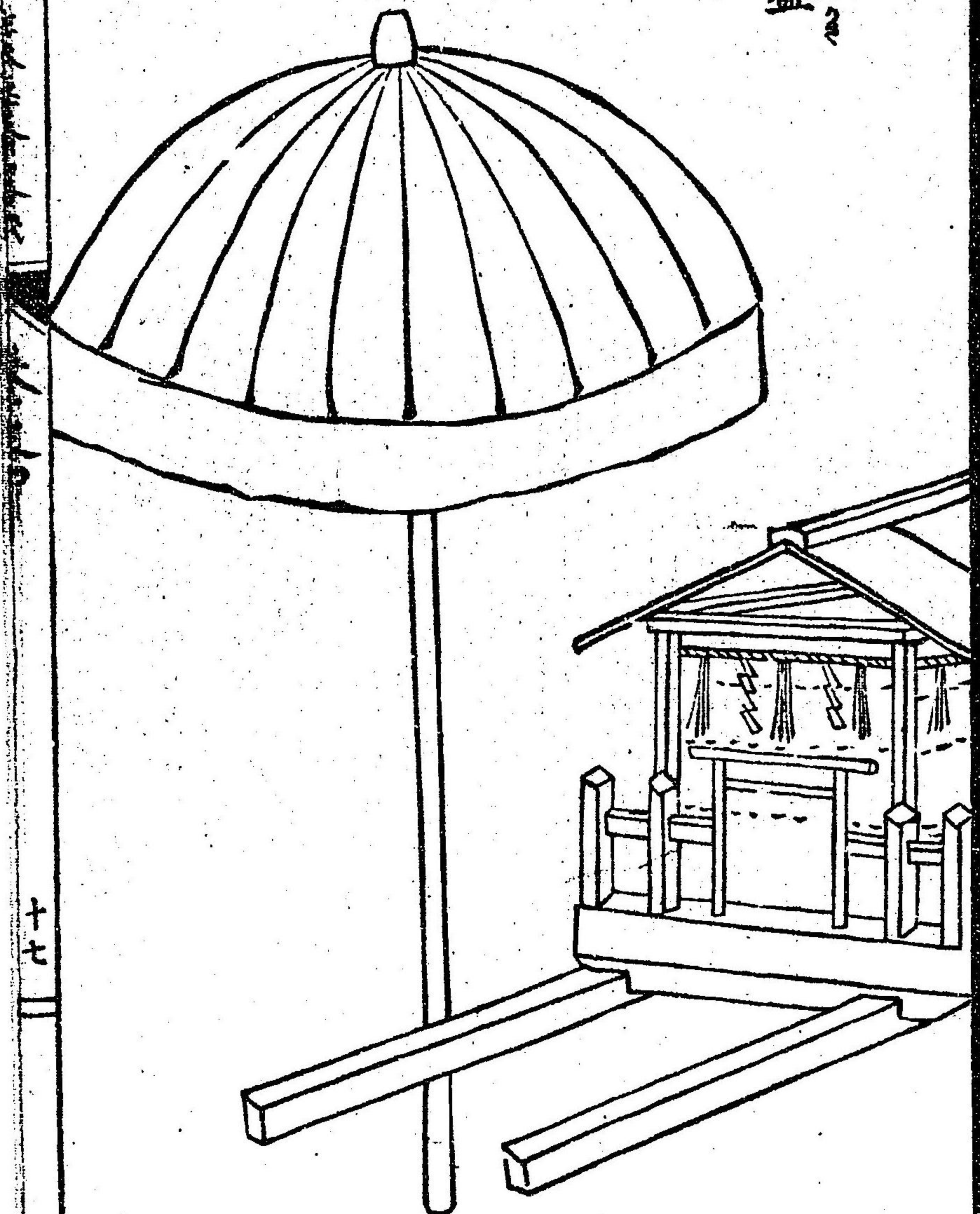


大擧



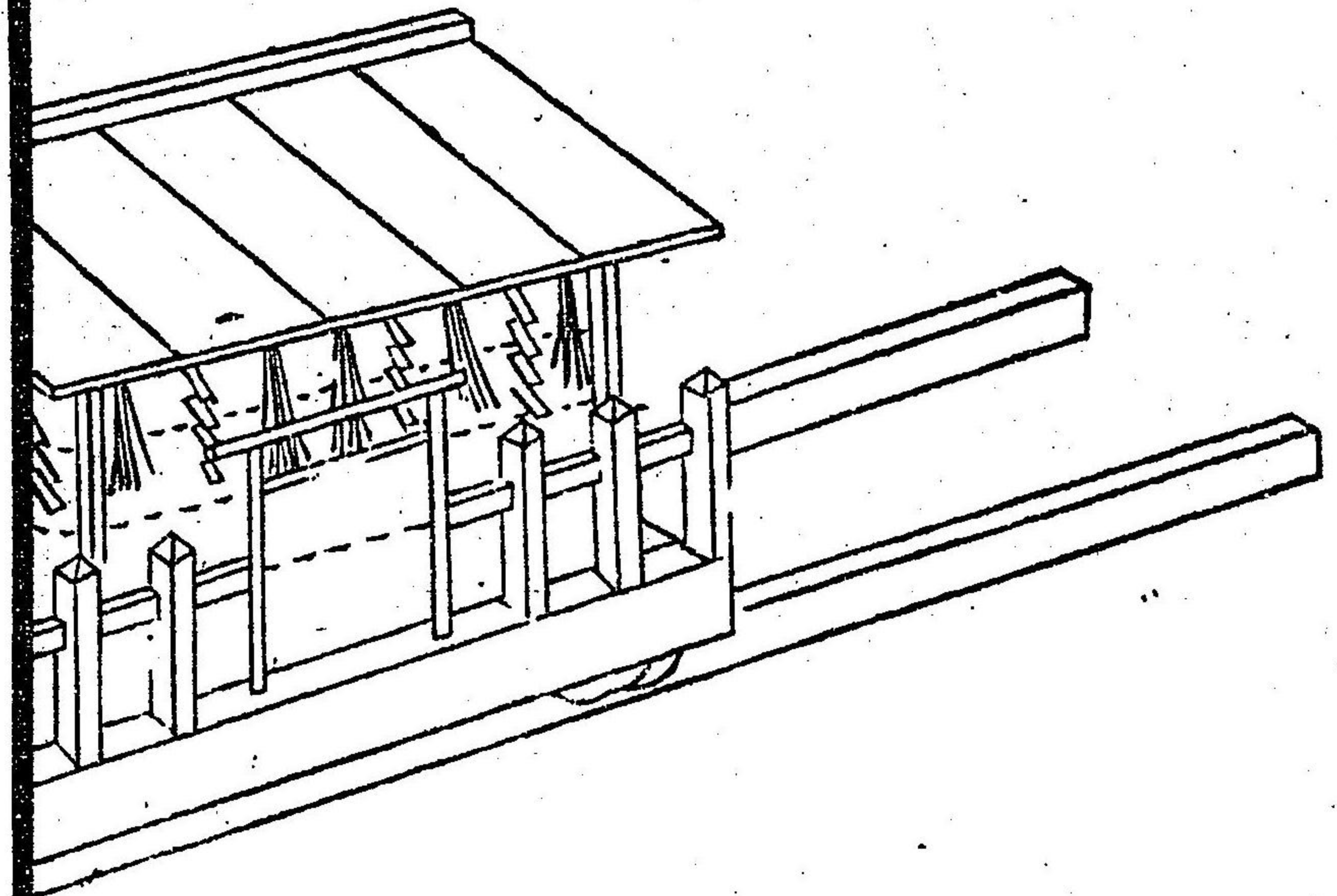


蓋  
カサ



十七

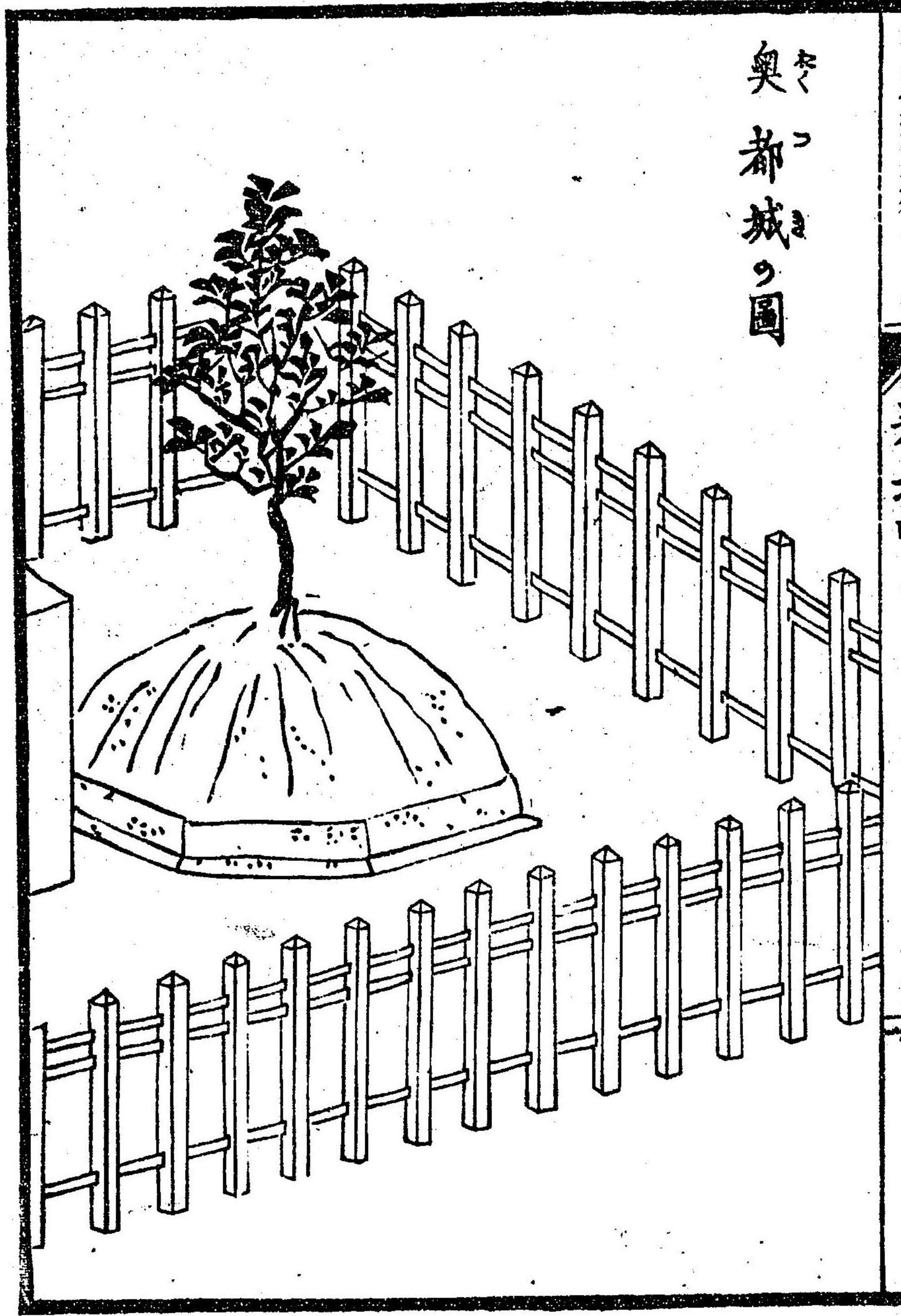
カサ  
大率  
カサ  
屋振  
中等  
做  
ハ  
作  
ス



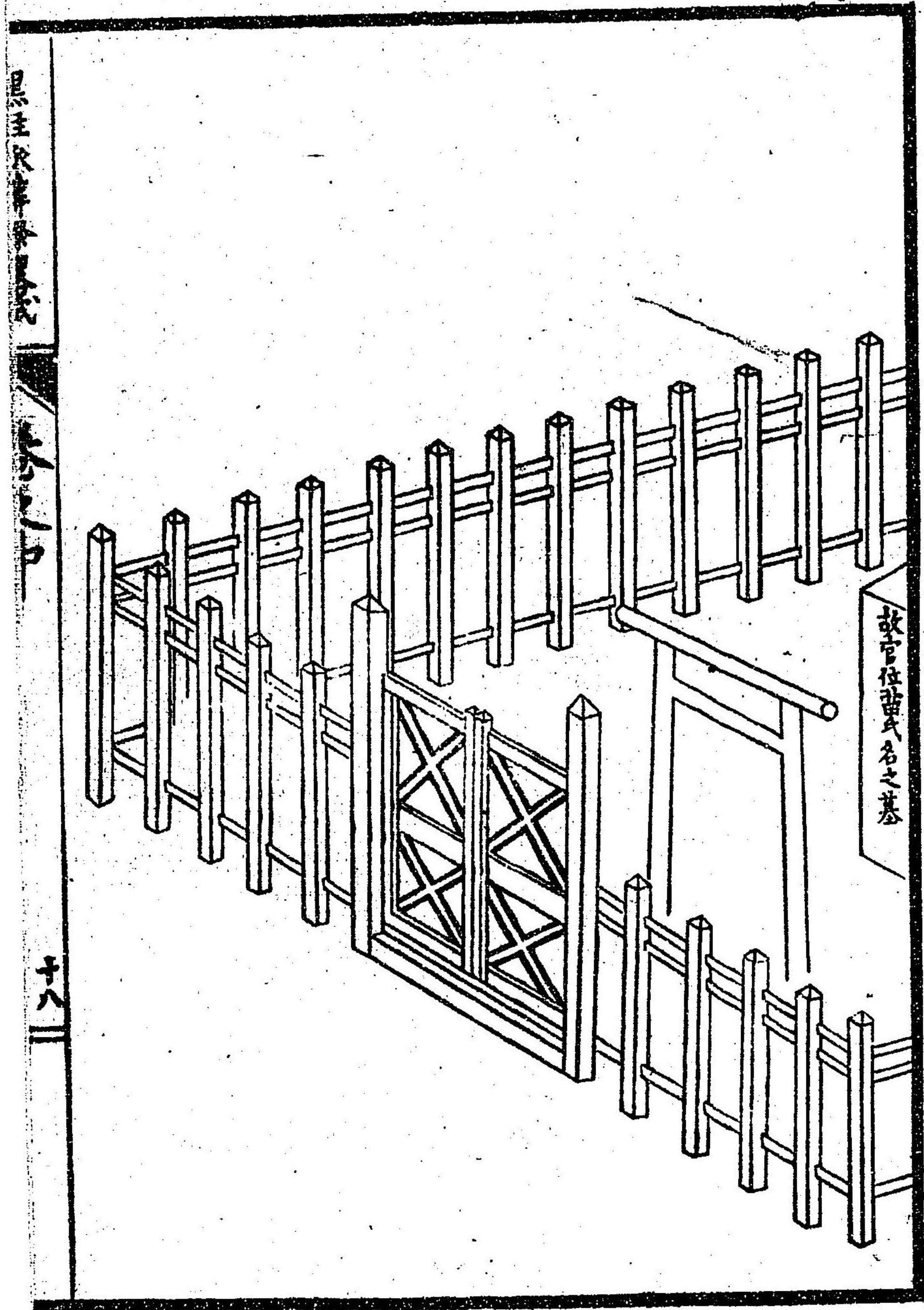
カサ



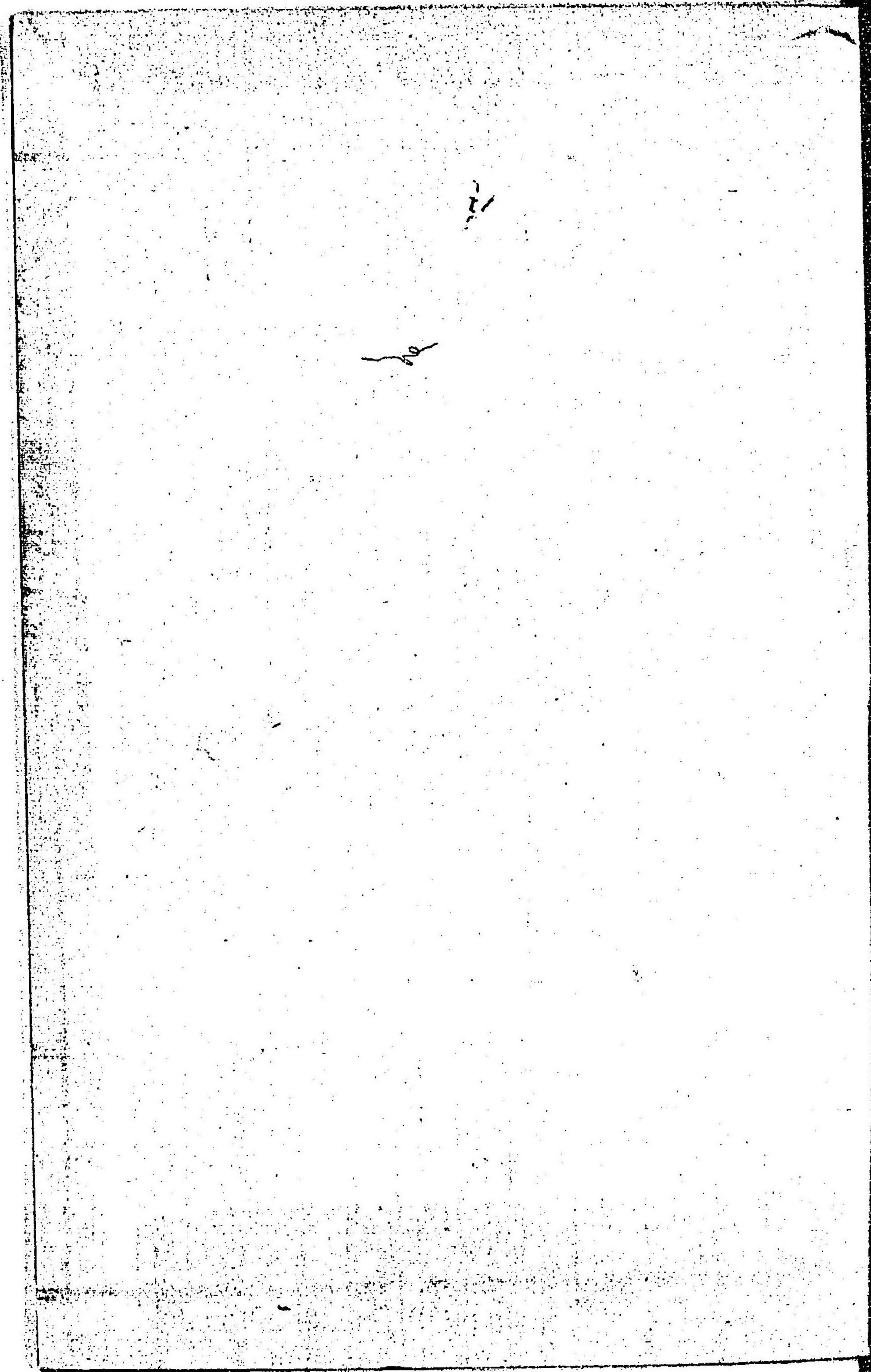
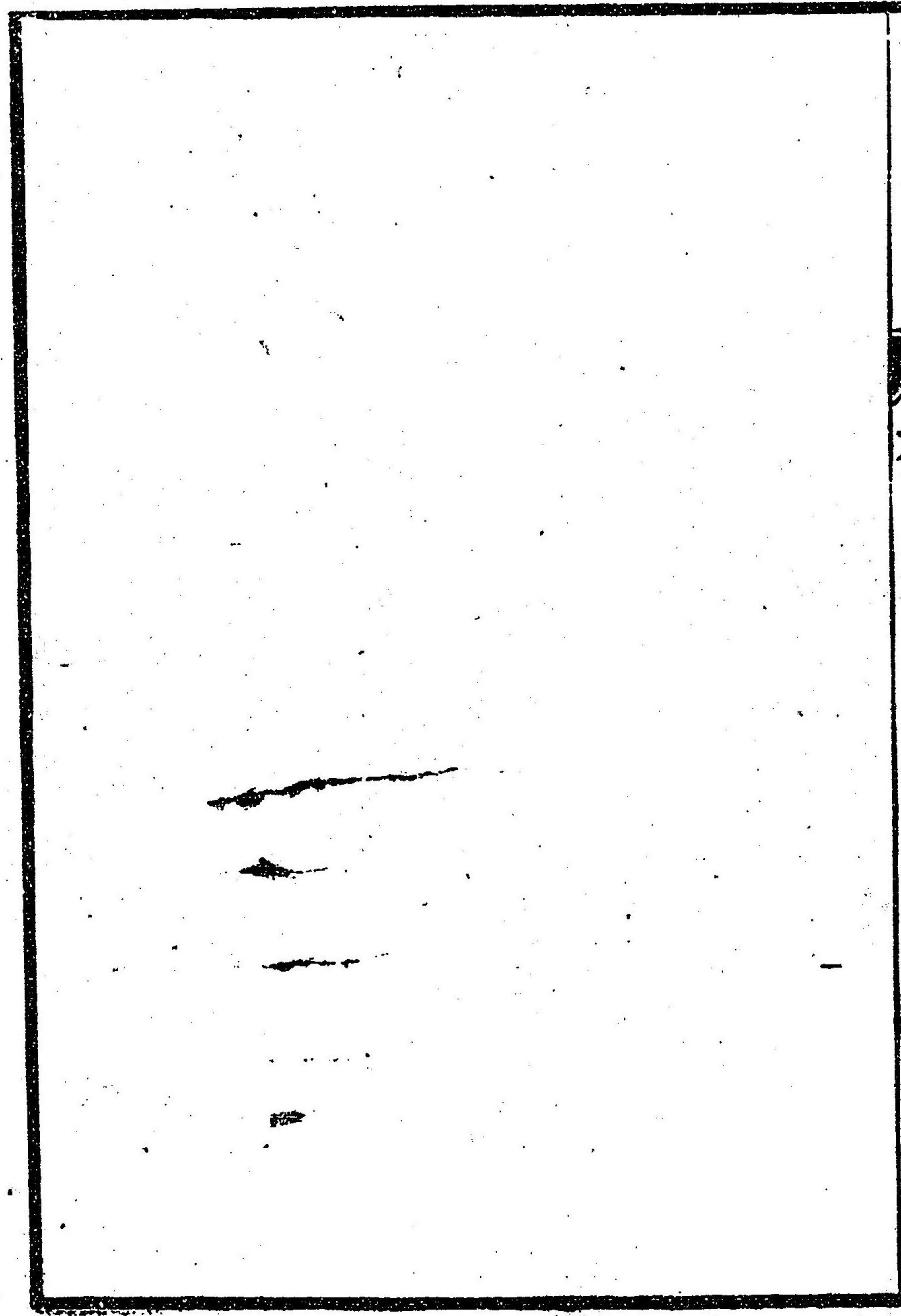
奥都府城の園



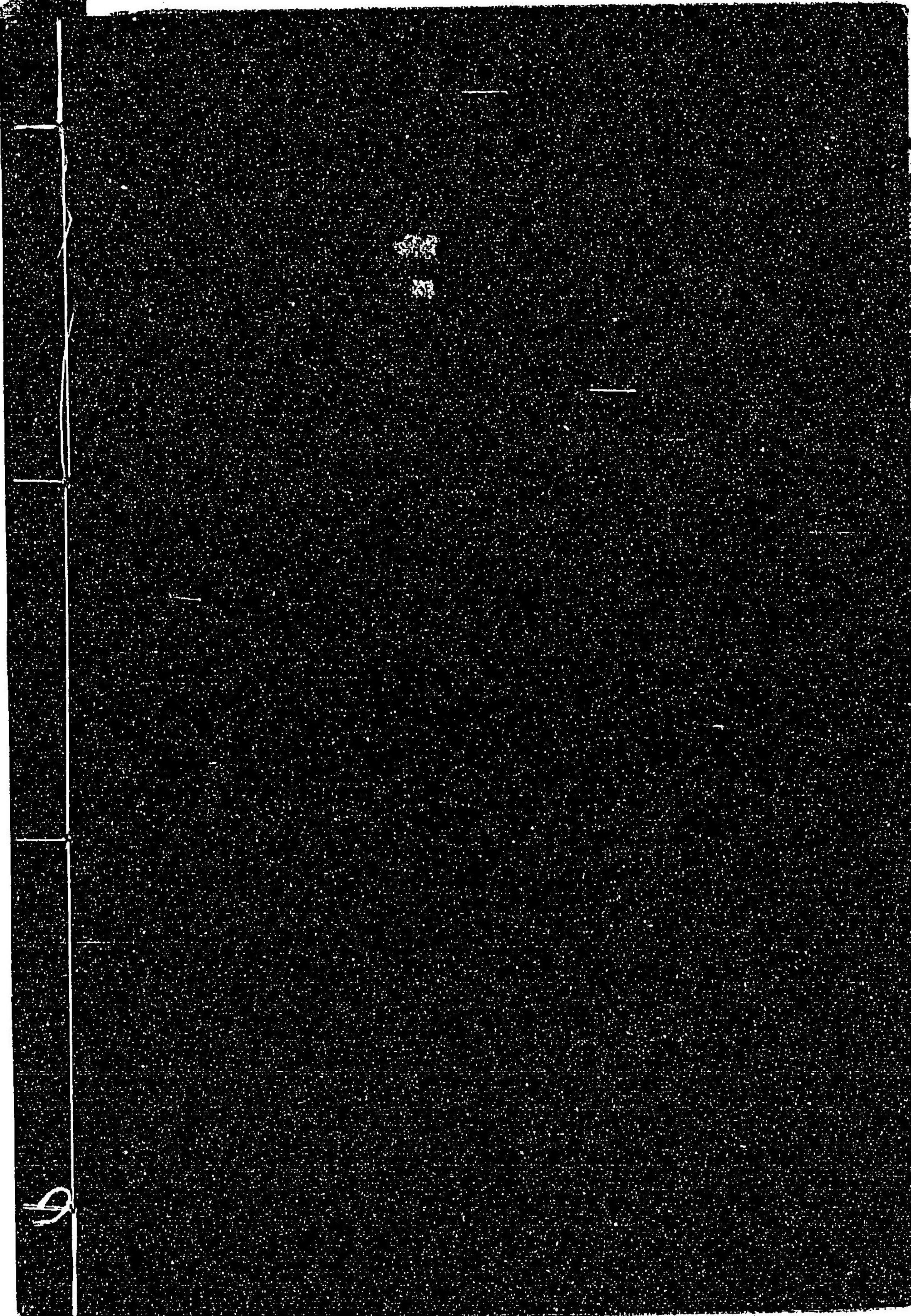
故官位留氏名之墓











9